2026年度
第2四半期決算概要
及び 通期業績予想（IFRS）
2026年11月19日

Overview of FY2026 Results Full-Year Projections

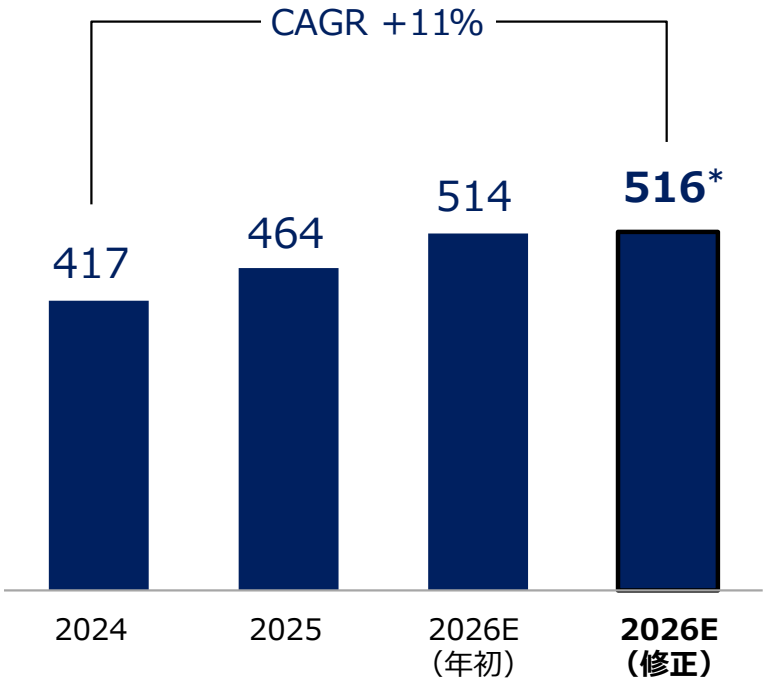
2Q

東京海上ホールディングス

Inspiring Confidence. Accelerating Progress.

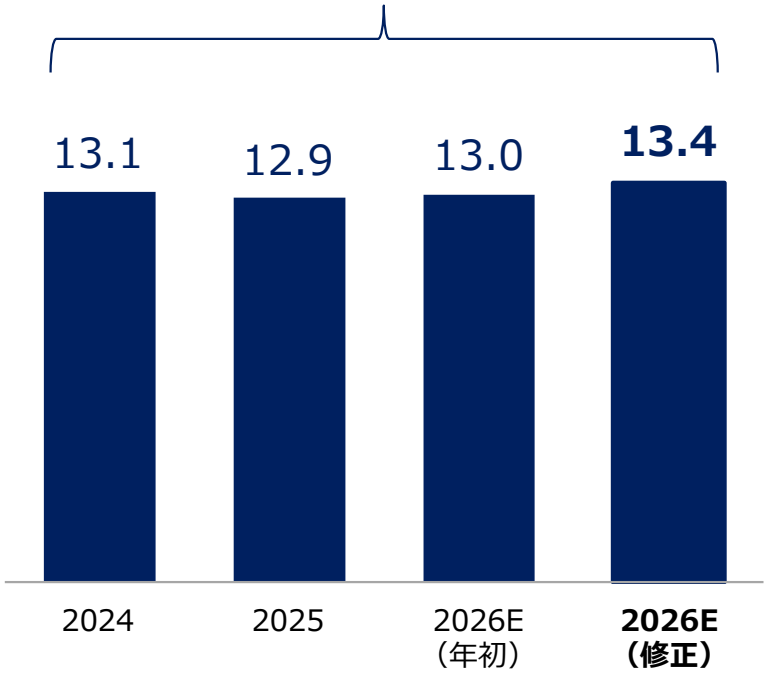
Core KPI：EPSは好調、ROEは改善途上

■修正EPS（円）



■修正ROE（%）

利益成長の一方、政策株式売却に伴う修正純資産拡大の影響により、ROE水準は横ばいで推移（詳細はP.43）

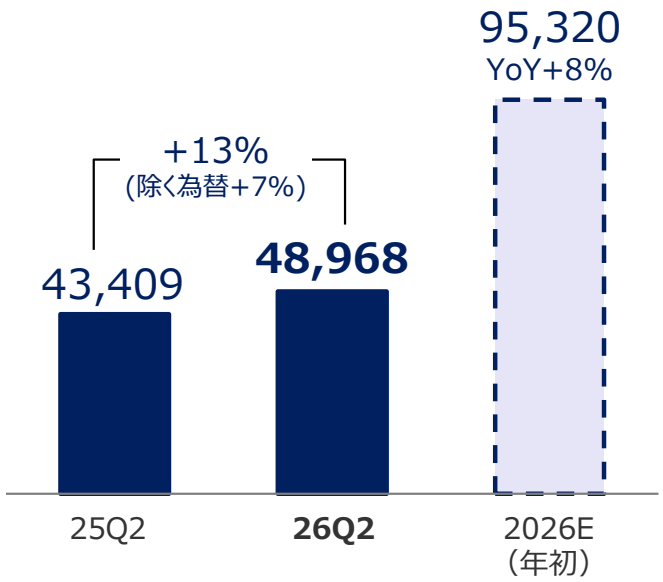


*：2026年10月の株式分割（15分割）後ベースでは、34.4円

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

26Q2 Results：トップライン・ボトムラインともに、概ね計画通りに進捗

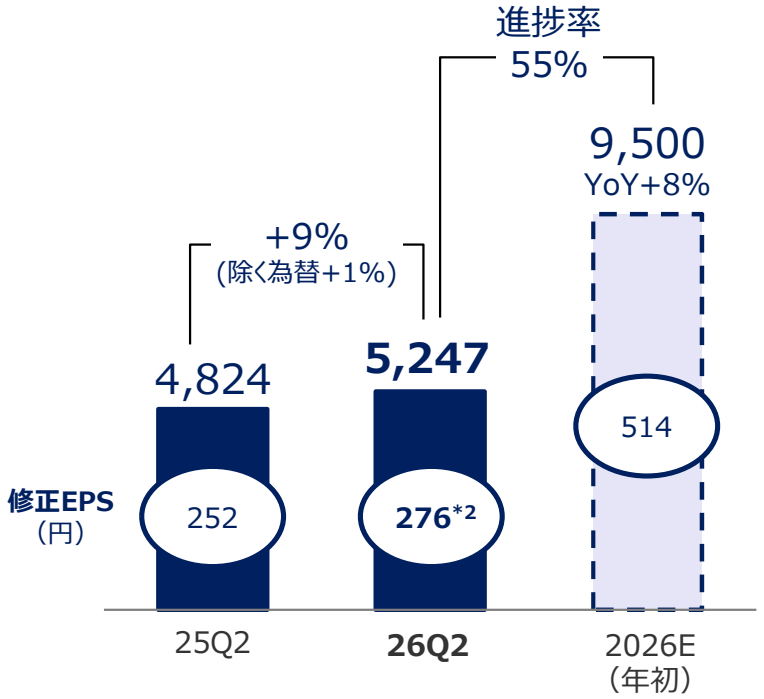
■Total Business Volume*1（億円）



	25Q2	26Q2	YoY	(参考) 2026E(年初) 増収率
Group	43,409	**48,968**	**+13%**	+8%
うち、Int'l	23,616	27,898	+18%	+12%
うち、Japan	18,908	20,019	+6%	+4%
うち、Solution	1,356	1,364	+1%	+10%

*1: 保険事業のグロス収入保険料、およびソリューション事業の売上高の合計

■修正純利益（億円）



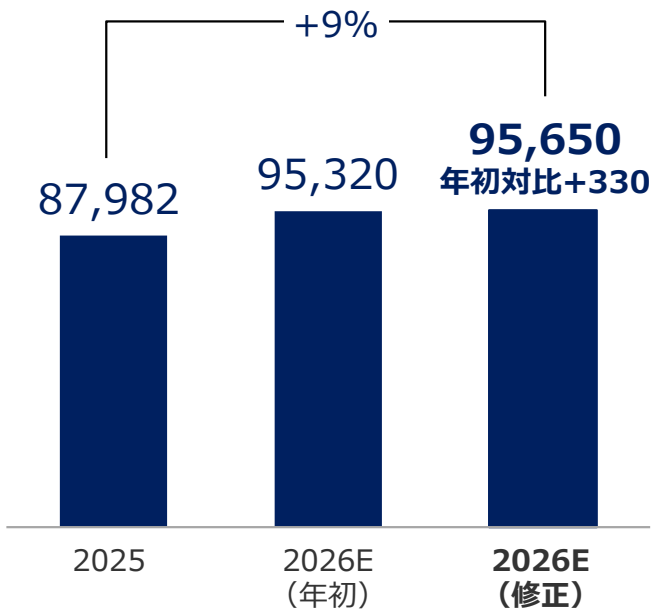
	25Q2	26Q2	YoY	年初予想対比 進捗率	(参考) 2026E(年初)
Group	4,824	**5,247**	**+9%**	**55%**	9,500
うち、Int'l	3,203	3,424	+7%	54%	6,340
うち、Japan	1,577	1,829	+16%	60%	3,050
うち、Solution	20	21	+5%	13%	170

*2: 2026年10月の株式分割（15分割）後ベースでは、18.4円

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

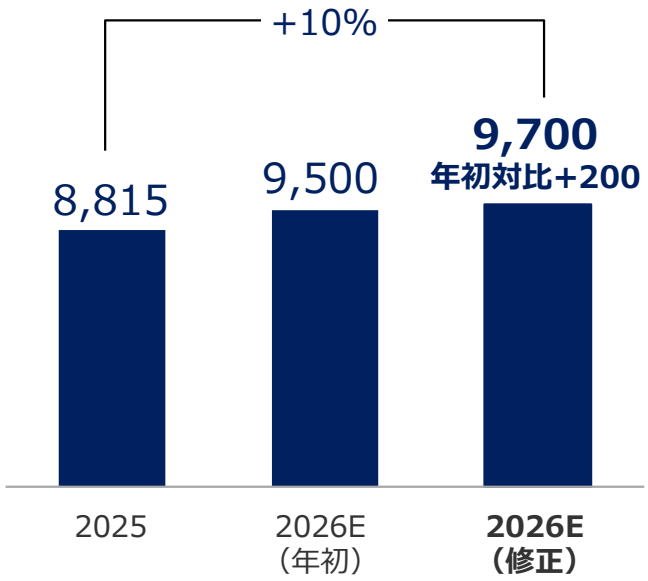
2026 Forecasts：年初予想を上方修正

■Total Business Volume（億円）



	① 2025	② 2026E （年初）	③ **2026E （修正）**	**③-② 年初対比**	**③/① YoY**
Group	87,982	95,320	**95,650**	**+330**	**+9%**
うち、Int'l	47,666	53,180	53,370	+190	+12%
うち、Japan	38,430	40,100	40,280	+180	+5%
うち、Solution	2,712	2,980	2,780	▲200	+2%

■修正純利益（億円）



	① 2025	② 2026E （年初）	③ **2026E （修正）**	**③-② 年初対比**	**③/① YoY**
Group	8,815	9,500	**9,700**	**+200***	**+10%**
うち、Int'l	5,785	6,340	6,460	+120	+12%
うち、Japan	3,040	3,050	3,170	+120	+4%
うち、Solution	141	170	170	-	+20%

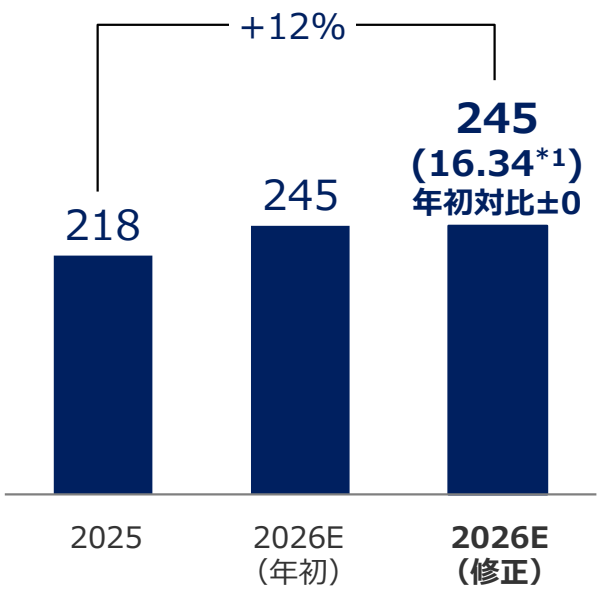
*: その他（連結調整等）▲40を含む

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Capital Strategy：規律を持って株主リターンを持続的に拡大

■DPS（円）

年初予想を維持（15年連続の増配）



■自己株式取得

2026年度：

4,000億円*2

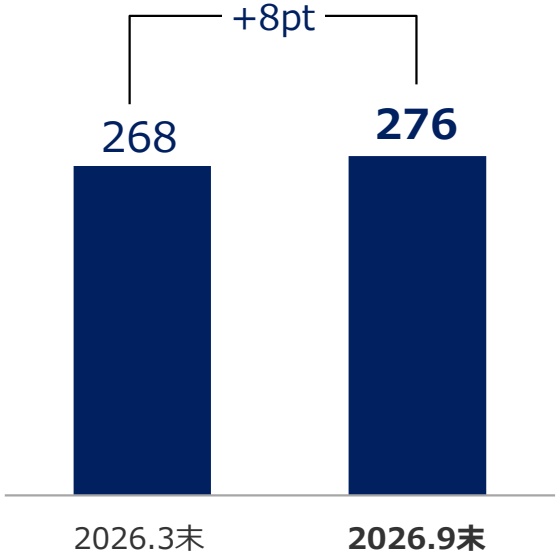
(うち、2,000億円は実施済)

*2: Berkshire Hathaway Groupへの第三者割当による希薄化影響を相殺するための自己株式取得を含まない。

希薄化影響相殺のための自己株式取得のうち、3月公表の2,874億円は上期に実施済だが、当社株価上昇に伴い、**追加で800億円の自己株式取得を決定。**

これを踏まえ、**今般、自己株式取得2,800億円（2,000億円＋追加800億円）を決議**

■ESR（%）



*1: 2026年10月の株式分割（15分割）後ベース

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

2026年度 第２四半期（4-9月）決算概要（IFRS）

- Group ・・・・・・ P. 6
- International事業 ・・・・・・ P. 7
- Japan事業 (P&C) ・・・・・・ P. 13
  (Life) ・・・・・・ P. 19
- Solution事業 ・・・・・・ P. 23

◆資料内にて使用している略称は、以下の通りです

- ➢P&C : Property & Casualty（損害保険）
- ➢TMNF : 東京海上日動火災保険
- ➢PHLY : Philadelphia
- ➢DFG : Delphi Financial Group
- ➢RSL : Reliance Standard Life
- ➢SNCC : Safety National
- ➢TMHCC : Tokio Marine HCC

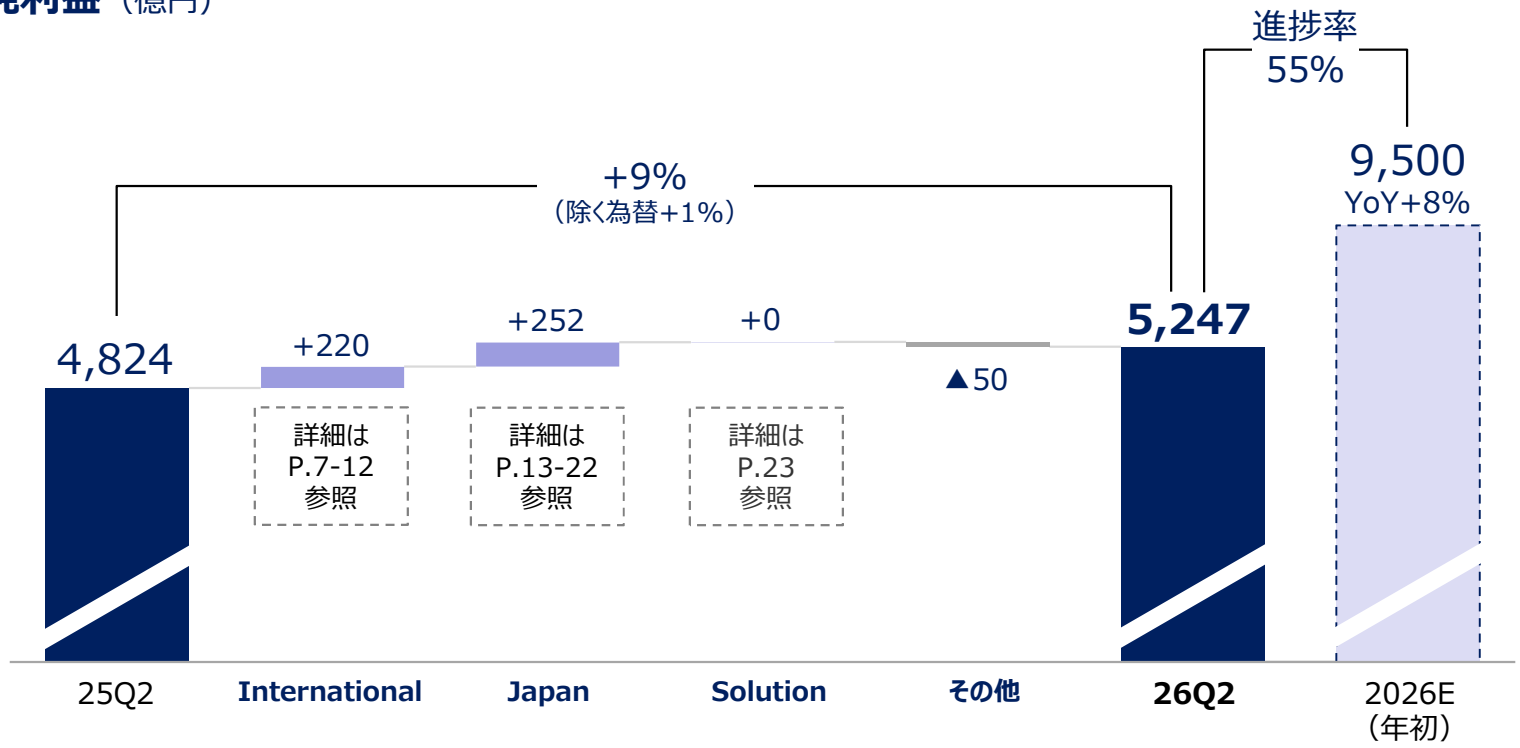
<ご参考>

	為替レート（ドル／円）	
	25年度	26年度
International (期中平均レート)	146.02円	159.49円
Japan (9月末レート)	148.88円	157.35円

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Group（修正純利益）：2Qは概ね計画通りに進捗

■修正純利益（億円）



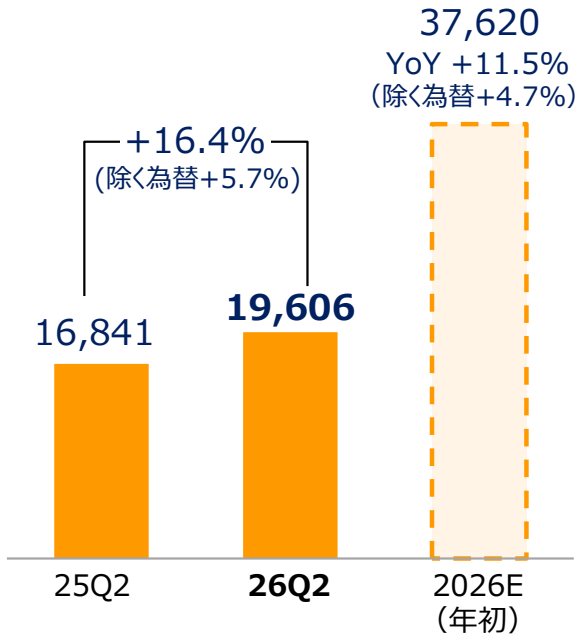
26Q2	**3,424**	**1,829**	**21**	**▲28**
25Q2	3,203	1,577	20	21
2026E（年初）	6,340	3,050	170	▲60

	Japan P&C	Japan Life
26Q2	**1,381**	**448**
25Q2	1,202	374
2026E（年初）	2,230	820

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

International（トップライン）：引受規律を堅持しつつ、計画をやや上回って進捗

■正味収入保険料（億円）



	25Q2	26Q2	YoY (除く為替)	(参考) 2026E(年初) 増収率
International Total	16,841	**19,606**	**+16.4% (+5.7%)**	+11.5% (+4.7%)
North America	11,800	**13,547**	**+14.8% (+5.2%)**	+9.4% (+3.1%)
うち、Specialty P&C ライン*1	8,674	9,810	+13.1% (+3.6%)	+9.9% (+3.5%)
うち、Employee Benefits ライン*2	3,126	3,736	+19.5% (+9.4%)	+8.2% (+2.0%)
EMEA	1,388	**1,641**	**+18.2% (+6.9%)**	+14.4% (+8.5%)
LATAM	1,691	**2,146**	**+26.9% (+6.7%)**	+19.9% (+7.9%)
APAC	1,663	**1,976**	**+18.9% (+9.1%)**	+13.6% (+7.4%)

- North America

  Specialty P&C ライン*1　：一部種目でソフト化の影響を受けたが、中小企業向け保険等の好調な引受拡大により、全体としては計画通り

  Employee Benefits ライン*2：メディカルストップロスのレートアップ等により、計画を上回って進捗

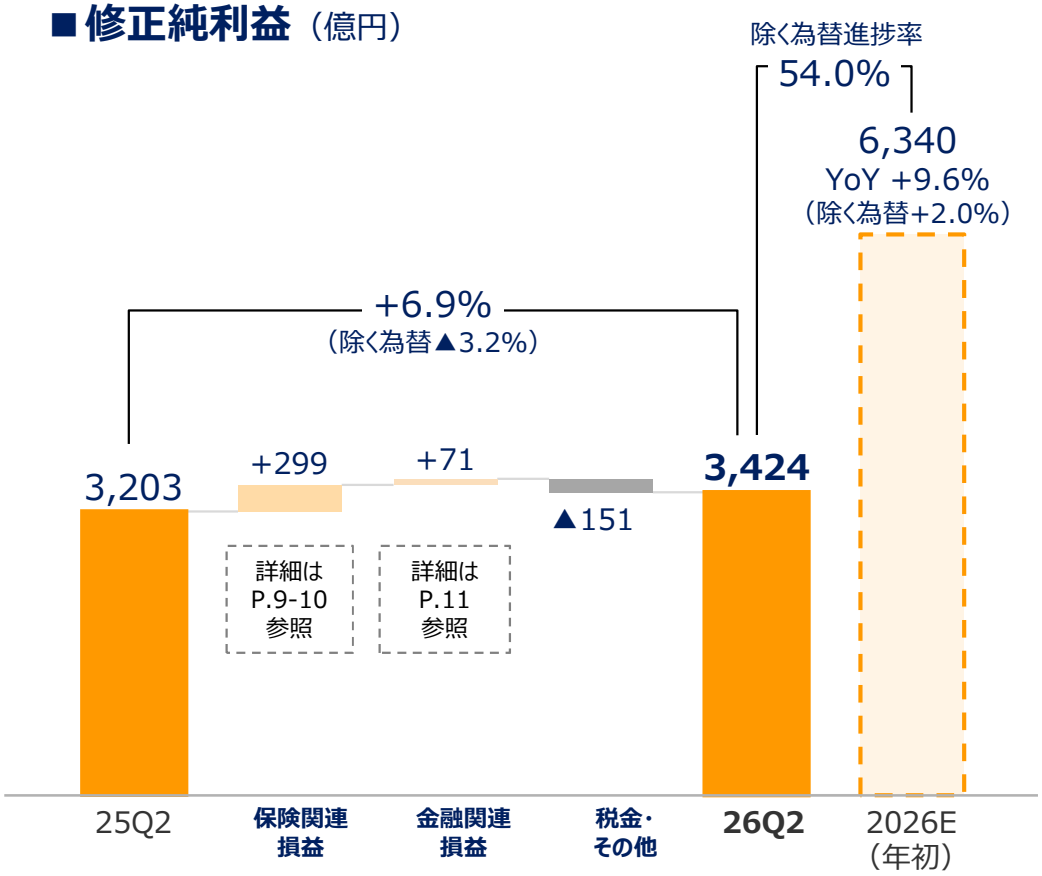
- EMEA　スペシャルティ種目等の新規引受は好調なものの、ソフト化の影響により計画をやや下回って推移
- LATAM　主力の自動車保険を中心に引受拡大したものの、価格競争の激化により、計画をやや下回って推移
- APAC　マレーシアやシンガポールの好調を主因に、計画を上回って進捗

*1: PHLY、TMHCC（傷害・医療保険を除く）、SNCC等で引き受けているSpecialty保険。Pureは含まない
*2: RSLにおける企業向け従業員福利厚生保険及びTMHCCにおける傷害・医療保険
（上記全ての注については、P.9-10も同様）

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

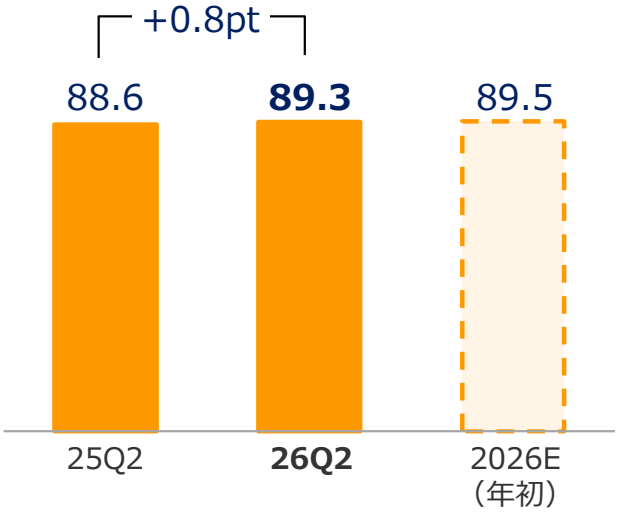
International（ボトムライン）：保険引受、資産運用ともに堅調で、計画をやや上回って進捗

■修正純利益（億円）



26Q2	**2,668**	**1,986**	**▲1,231**
25Q2	2,368	1,914	▲1,079
2026E（年初）	5,150	3,710	▲2,520

■C/R（%）



C/R	88.6	**89.3**	89.5
L/R	59.0	**60.0**	59.6
うち、割引効果	▲4.9	▲5.3	
うち、自然災害	0.9	0.9	2.3
うち、過年度リザーブ	▲0.3	▲0.4	
E/R	29.5	**29.4**	29.9

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

International（保険関連損益）：North America等の好調な保険引受により、計画を上回って進捗

(税前・億円)	25Q2	26Q2	YoY (除く為替)	予想対比進捗率*1	(参考) 2026E(年初)
International Total*2	2,368	**2,668**	**+12.7% (+2.6%)**	**51.8%**	5,150
North America*3	1,920	**2,309**	**+20.2% (+10.1%)**	**54.7%**	4,230
うち、Specialty P&C ライン	1,377	1,732	+25.8% (+15.2%)	56.4%	3,080
うち、Employee Benefits ライン	297	250	▲15.8% (▲22.9%)	54.5%	460
EMEA	166	**41**	**▲75.1% (▲77.2%)**	**17.9%**	230
LATAM	107	**215**	**+99.4% (+67.7%)**	**58.9%**	360
APAC	165	**79**	**▲51.9% (▲57.1%)**	**22.3%**	350

- North America
  - Specialty P&C ライン　：除く自然災害の保険引受が底堅く推移したことと、自然災害が少なかったことにより、計画を上回って進捗
  - Employee Benefits ライン：団体生保の好調を主因に、計画を上回って進捗
- EMEA　中東情勢関連等の大口ロスを主因に、計画を下回って推移
- LATAM　価格競争が激化しているものの、規律を堅持しながら着実に引受拡大し、計画を上回って進捗
- APAC　マレーシアや台湾で好調だったものの、豪州Greensill訴訟に係るリザーブ積増しにより、計画を下回って推移

*1: 為替影響を除く
*2: North America, EMEA, LATAM, APACの合計と一致しない主因は、主要地域に紐づかないグループ再保険等が含まれるため
*3: Specialty P&Cライン、Employee Benefitsライン、保険関連のフィービジネス(Pure等)で構成

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

International（保険関連損益）：North America等の好調な保険引受により、計画を上回って進捗

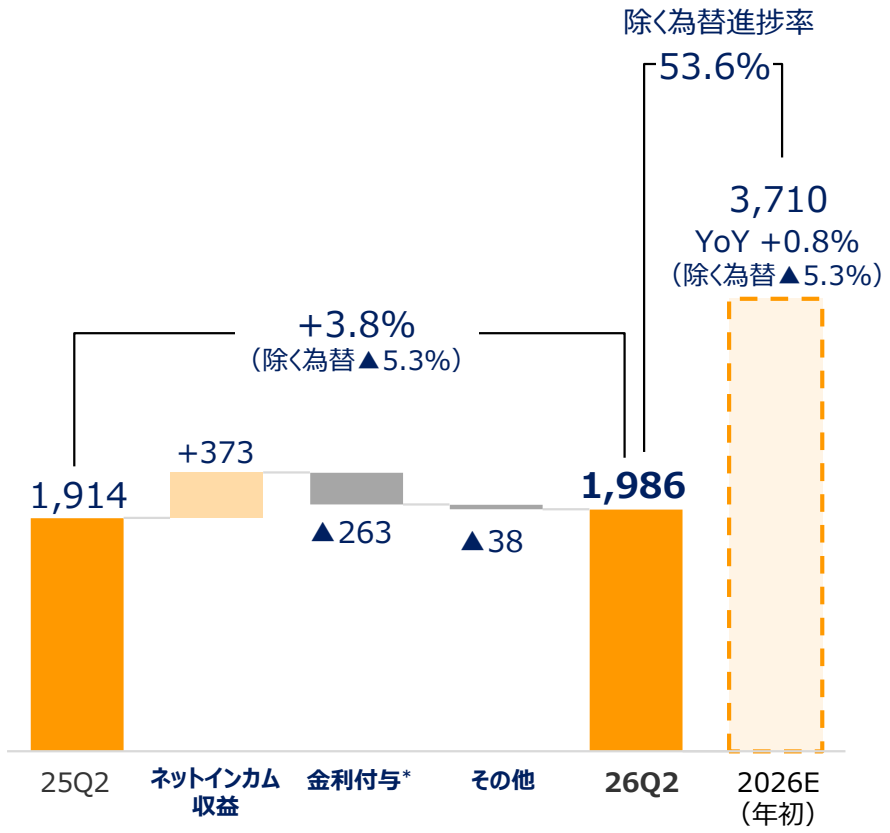
*: C/Rに与える影響

	C/R				自然災害の影響*			
	25Q2	26Q2	YoY	(参考) 2026E(年初)	25Q2	26Q2	YoY	(参考) 2026E(年初)
International Total	88.6%	**89.3%**	**+0.8pt**	89.5%	0.9pt	**0.9pt**	**▲0.0pt**	+2.3pt
North America	87.7%	**87.5%**	**▲0.3pt**	88.5%	1.1pt	**1.0pt**	**▲0.2pt**	
うち、Specialty P&C ライン	86.2%	84.7%	▲1.5pt	86.3%	1.5pt	1.4pt	▲0.2pt	
うち、Employee Benefits ライン	91.9%	94.4%	+2.5pt	94.3%				
EMEA	89.2%	**97.7%**	**+8.5pt**	93.1%	0.5pt	**1.0pt**	**+0.6pt**	
LATAM	93.8%	**90.7%**	**▲3.1pt**	92.6%	-	**-**	**-**	
APAC	90.3%	**97.8%**	**+7.6pt**	91.1%	0.4pt	**-**	**▲0.4pt**	

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

International（金融関連損益）：堅調なインカム収益等により、計画をやや上回って推移

■金融関連損益（修正純利益ベース、税前、億円）



26Q2	**3,612**	**▲1,817**	**191**
25Q2	3,238	▲1,553	229
2026E (年初)	7,130	▲3,540	110

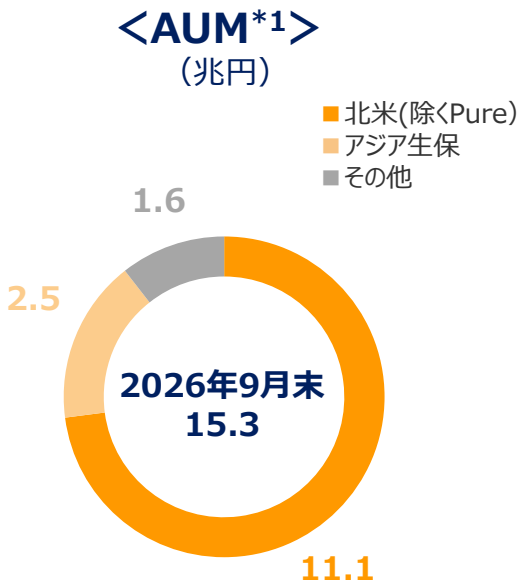
- ネットインカム収益
  AUMが順調に拡大し、計画通り進捗
- 金利付与*
  堅調な引受拡大に伴う保険負債の増加等により計画通り進捗
- その他
  デリバティブの評価益により、計画を上回って推移

*:保険負債および投資契約負債等に対する金利付与（Unwind）による費用。投資契約負債については、当該負債に係る利息相当の費用を含む

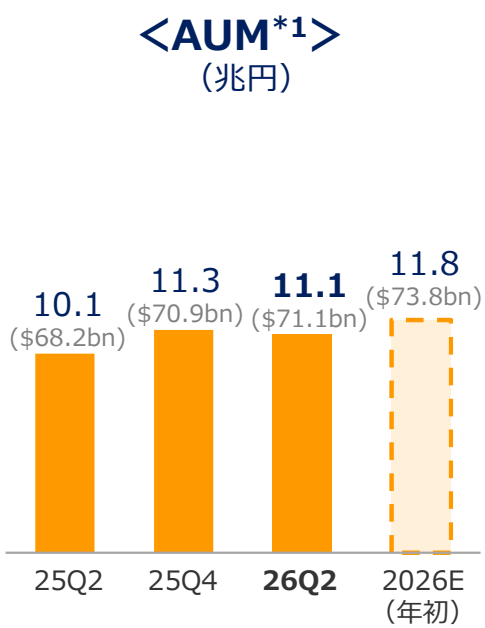
Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

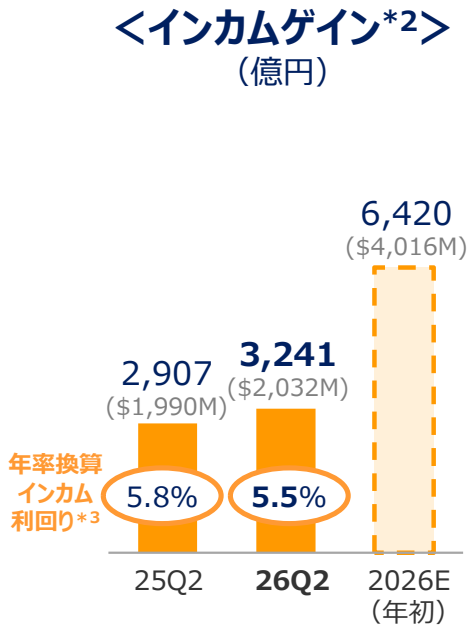
International（資産運用）：米金利上昇を背景に、インカムゲインは計画をやや上回って推移

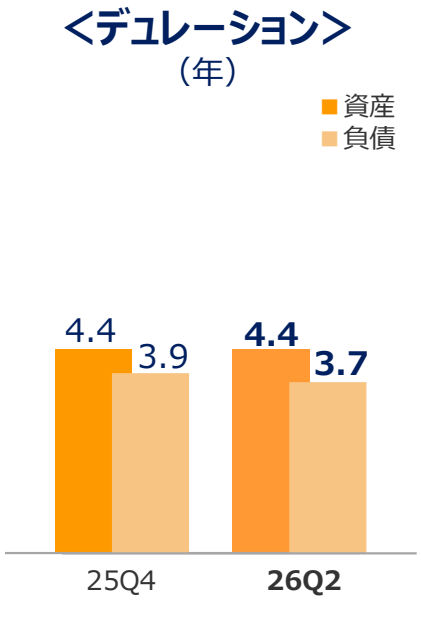
■地域別の資産運用残高



■北米資産運用の主要KPI





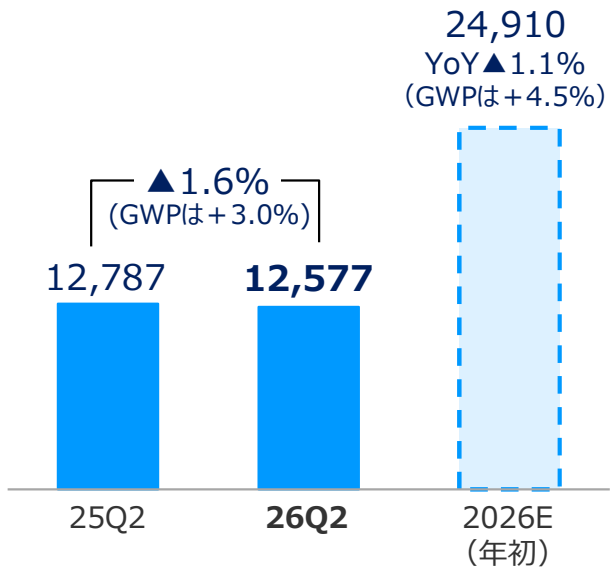


*1: 期末レート換算（25Q2:148.88円/USD、25Q4:159.88円/USD、26Q2:157.35円/USD、2026E:159.88円/USD）
*2: 期中平均レート換算（25Q2:146.02円/USD、26Q2:159.49円/USD）。2026Eは26年3月末レート（159.88円/USD）で換算
*3: 簿価利回り

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Japan P&C（トップライン）：火災の収益改善の取組みに伴う減収を主因に、計画をやや下回って推移

■正味収入保険料・NWP（民保計、億円）



民保計・億円 ()カッコ内の数字はGWP	25Q2	26Q2	YoY	(参考) 2026E(年初) 増収率
Japan P&C合計	12,787 (14,351)	**12,577** **(14,786)**	**▲1.6%** **(+3.0%)**	▲1.1% (+4.5%)
うち、自動車	6,640 (6,669)	6,812 (7,141)	+2.6% (+7.1%)	+1.3% (+7.0%)
うち、火災	2,412 (2,867)	2,116 (2,668)	▲12.3% (▲7.0%)	▲8.4% (▲0.8%)
うち、Specialty*	3,734 (4,813)	3,648 (4,976)	▲2.3% (+3.4%)	▲0.8% (+4.0%)

■ GWPは火災の収益改善の取組みに伴う減収を主因に、計画をやや下回って推移

- 自動車

  概ね計画通り

- 火災

  収益改善の取組みに伴う減収を主因に、計画を下回って推移

- Specialty*

  海外旅行保険のレートアップ効果が下期に発現すること等を考慮すると、概ね計画通り

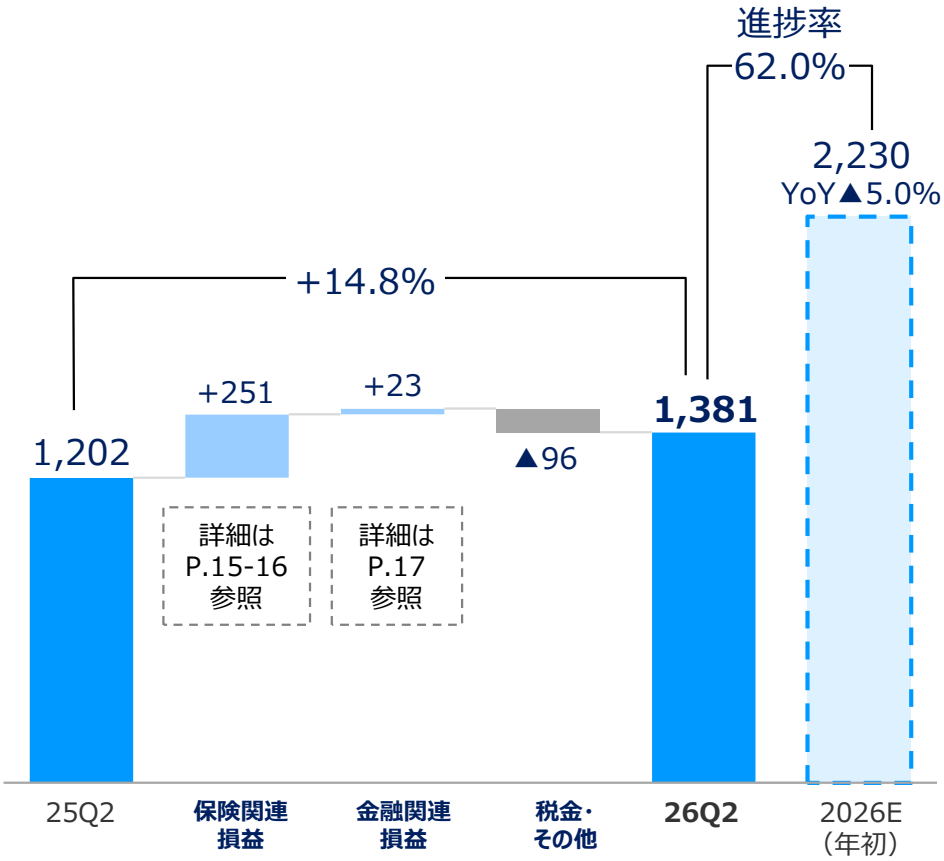
■ NWPはGWPの減少を主因に、計画をやや下回って推移

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

*: 海上・傷害を含む。以降同様

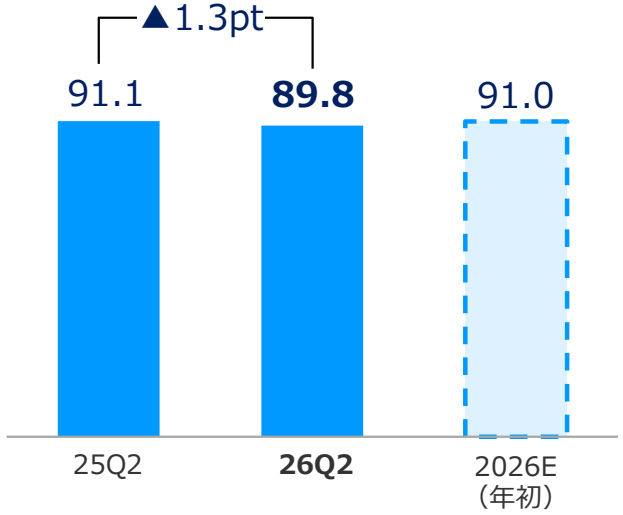
Japan P&C（ボトムライン）：大口事故の減少や想定を下回る自然災害を主因に、計画を上回って推移

■修正純利益（億円）



26Q2	**1,488**	**444**	**▲551**
25Q2	1,236	421	▲455
2026E (年初)	2,660	570	▲1,000

■C/R（民保計・%）



C/R	91.1	**89.8**	91.0
L/R	64.0	**62.6**	63.7
うち、割引効果	▲0.4	▲0.8	
うち、自然災害	2.9	4.6	3.5
うち、過年度リザーブ	0.5	▲0.9	
E/R	27.1	**27.2**	27.3

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Japan P&C（保険関連損益）：大口事故の減少や想定を下回る自然災害を主因に、計画を上回って推移

（税前、民保計・億円）	25Q2	26Q2	YoY	予想対比進捗率	（参考）2026E(年初)
Japan P&C合計	1,236	**1,488**	**+20.4%**	**56.0%**	2,660
自動車	126	**315**	**+149.1%**	**54.3%**	580
火災	691	**675**	**▲2.3%**	**57.7%**	1,170
Specialty	418	**497**	**+18.8%**	**54.6%**	910

- 自動車

  事故頻度は計画対比で微減の一方、インフレの加速により保険金単価が計画対比で上振れたことを主因に、計画をやや下回って推移

前年同期比	【今回】26.9末時点*	【2026E(年初)】
事故頻度	▲0.5%	±0%
保険金単価 (車両・対物)	+7.5%	+6%

- 火災

  自然災害が想定を下回ったことや大口事故の減少により、計画を上回って進捗

- Specialty

  1Qに北米賠責に係る大口事故があった一方、国内の大口事故が減少したことを主因に、計画を上回って進捗

*: 既往1ヵ年実績（25.10~26.9）

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Japan P&C（保険関連損益）：大口事故の減少や想定を下回る自然災害を主因に、計画を上回って推移

（民保計）	L/R				自然災害の影響[*1,2]			
	25Q2	26Q2	YoY	(参考) 2026E(年初)	25Q2	26Q2	YoY	(参考) 2026E(年初)
Japan P&C合計	64.0%	**62.6%**	**▲1.4pt**	63.7%	2.9pt	**4.6pt**	**+1.7pt**	3.5pt
自動車	67.8%	**66.1%**	**▲1.7pt**	66.1%	2.2pt	**2.6pt**	**+0.3pt**	1.5pt
火災	49.3%	**49.1%**	**▲0.3pt**	52.7%	8.9pt	**16.2pt**	**+7.3pt**	13.5pt
Specialty	67.3%	**65.6%**	**▲1.7pt**	66.8%	0.2pt	**0.5pt**	**+0.2pt**	0.5pt

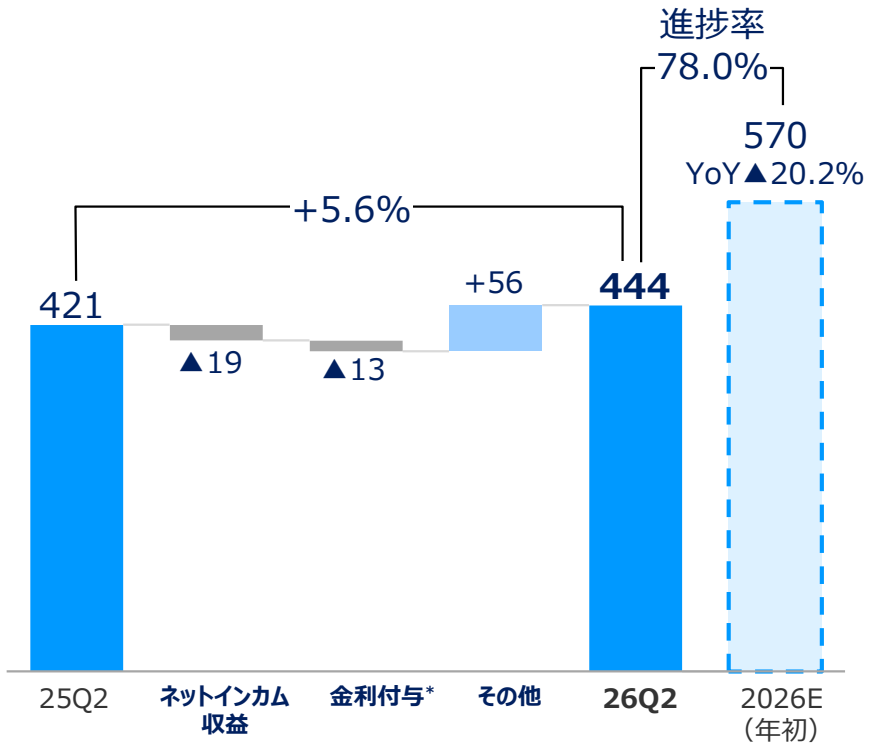
*1: L/Rに与える影響

*2: 自然災害の影響は上期に寄る傾向がある

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Japan P&C（金融関連損益）：好調なインカムを主因に、計画を上回って推移

■ **金融関連損益**（修正純利益ベース、税前、億円）



26Q2	**769**	**▲168**	**▲155**
25Q2	788	▲154	▲212
2026E（年初）	1,230	▲330	▲330

- ネットインカム収益

  ファンドからのインカム増加を主因に、計画を上回って進捗

- 金利付与*

  概ね計画通り

- その他

  円高進行に伴う外貨建支払備金の負担減少により、計画を上回って進捗

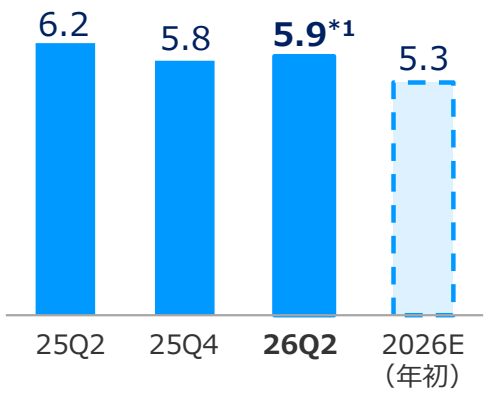
*：保険負債に対する金利付与（Unwind）による費用

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

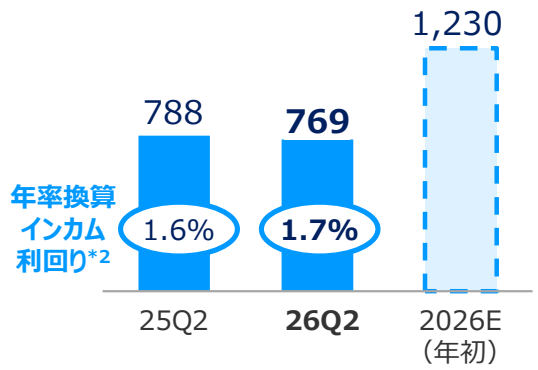
Japan P&C（資産運用）：政策株式売却は順調。インカムゲインは計画をやや上回って推移

■資産運用の主要KPI

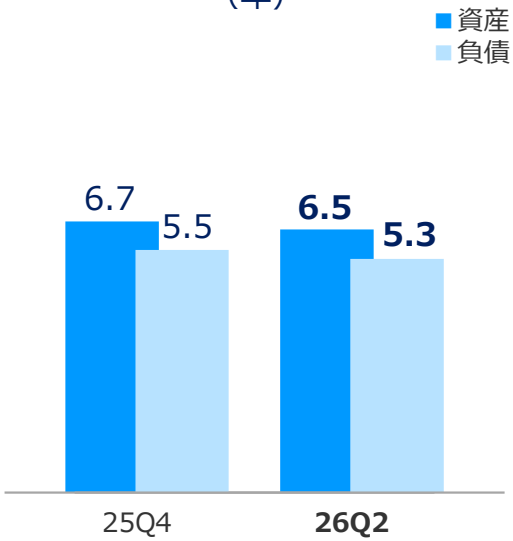
<AUM>
（兆円）



<インカムゲイン>
（億円）



<デュレーション*3>
（年）

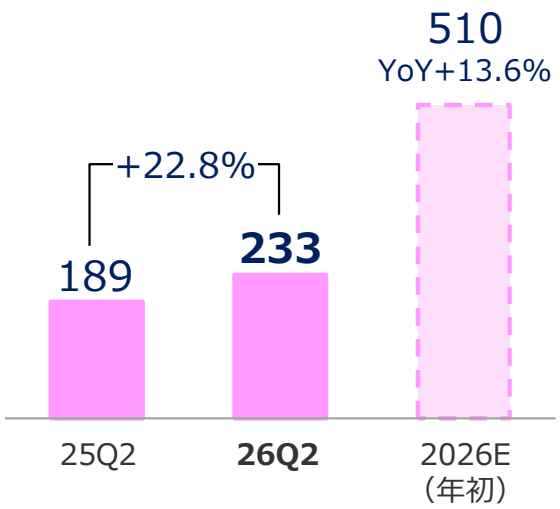


*1: 政策株式売却の2026年度年初計画4,300億円に対し、26Q2売却実績は3,460億円（KPIには含まれないが、売却益は3,104億円）
*2: TMNFのALM対応債券等の簿価利回り
*3: TMNFのALM対応部分のデュレーション

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

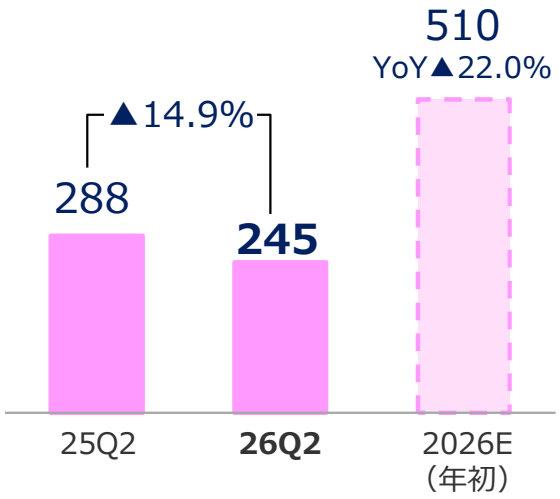
Japan Life（新契約）：ANPは順調に進捗。新契約CSMは概ね計画通り

■ANP（新契約年換算保険料、億円）



- 回払変額保険や積立利率変動型一時払終身保険*（25年9月発売）の好調などにより、計画対比で順調に進捗

■新契約CSM（億円）



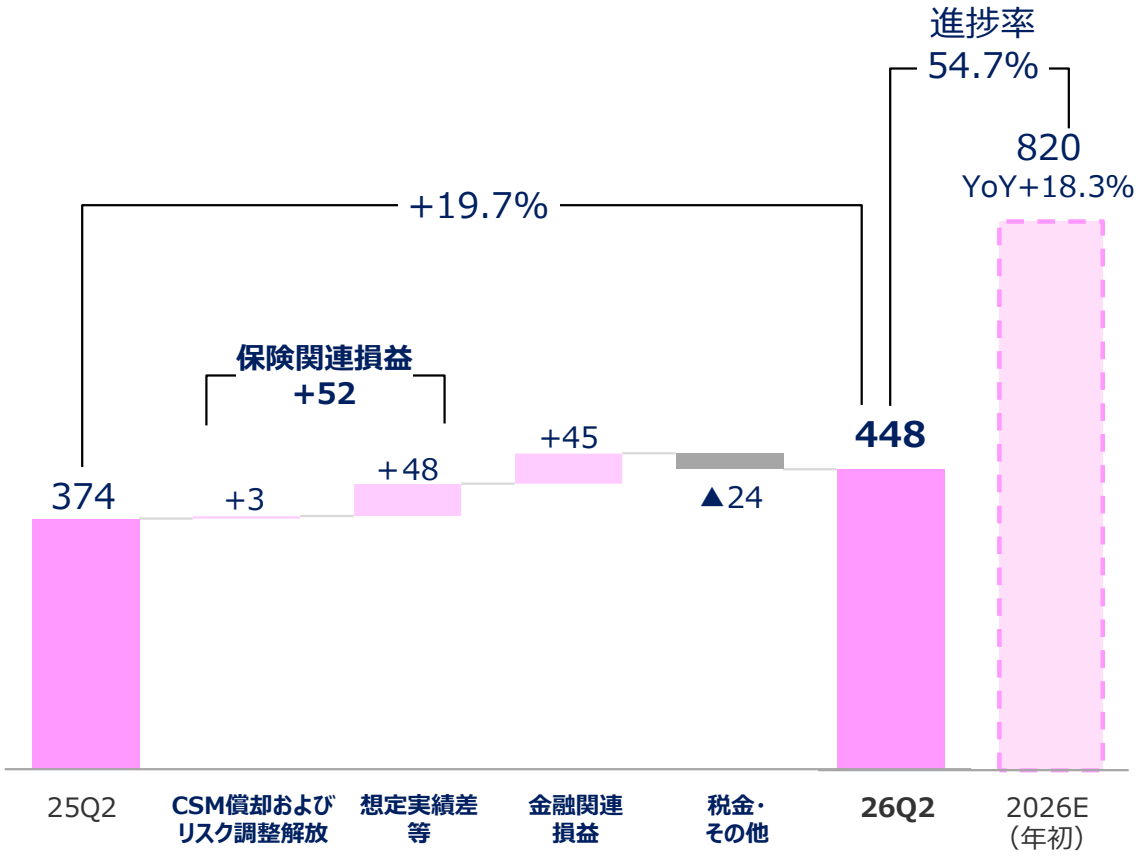
- 概ね計画通りに進捗。
  前年同期比では、コンサルティング営業をドライブするための投資など、事業費の増加を主因に減少

*：MVA（市場価格調整機能）を備えることで動的解約リスクを抑制している

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Japan Life（ボトムライン）：ブロック出再や金利上昇によりフロー収益が改善。概ね計画通り

■ **修正純利益**（億円）



26Q2	564	45	14	▲176
25Q2	560	▲2	▲30	▲152
2026E（年初）	1,190	▲10	▲20	▲340

- 保険関連損益

  概ね計画通りに進捗。
  前年同期比では、前年度に支払実績が想定を上回った影響の反動等により増益

- 金融関連損益

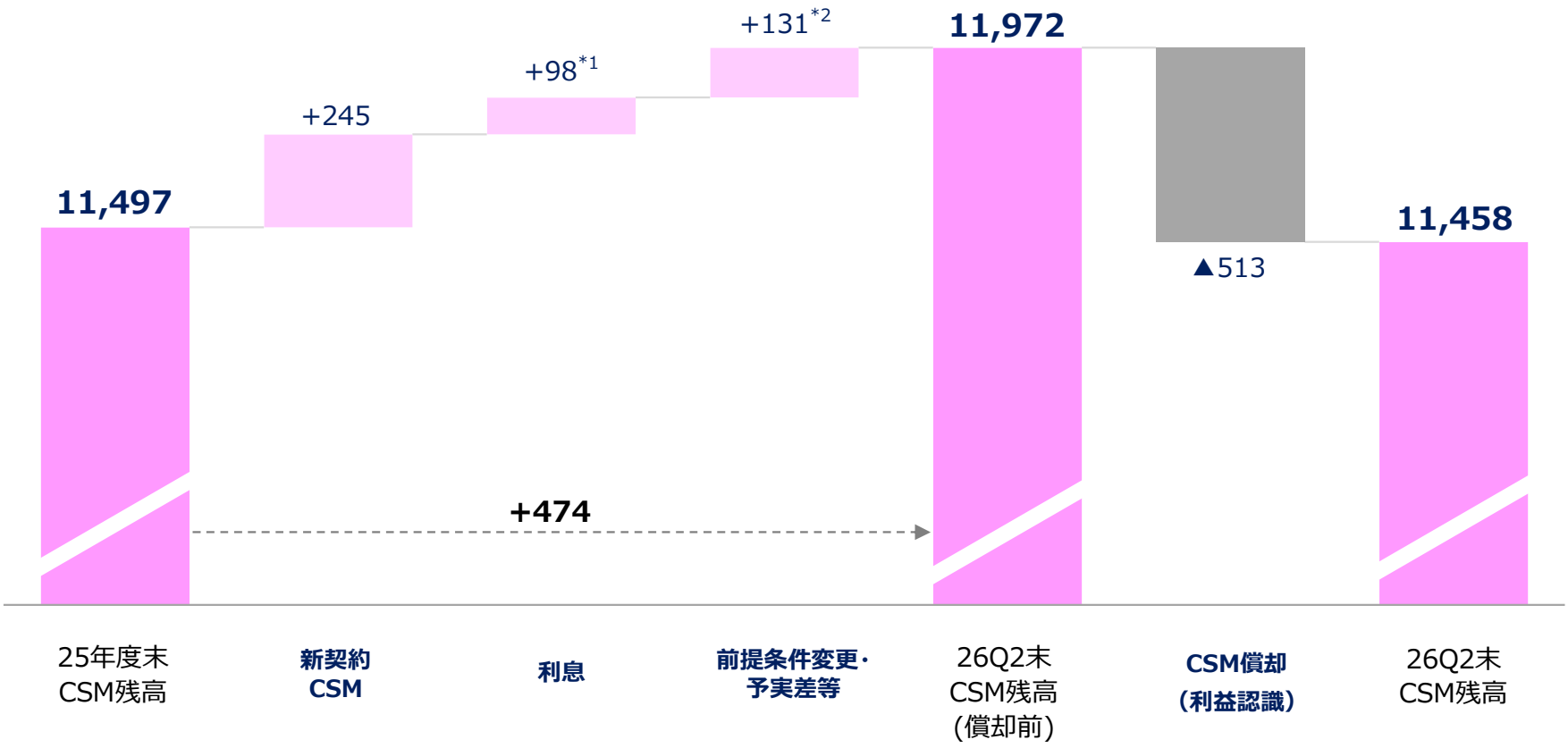
  計画対比で順調に進捗。
  前年同期比では、ブロック出再（26年3月分）に伴う金利付与* の改善や金利上昇に伴うインカム収入の増加等により増益

*：保険負債およびブロック出再に係る再保険資産等に対する金利付与

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Japan Life（CSM）：概ね計画通りに推移

■CSM（億円）



*1: 期間経過分の割引の剥落
*2: ブロック出再（26年3月）に係る再保険料の確定精算等

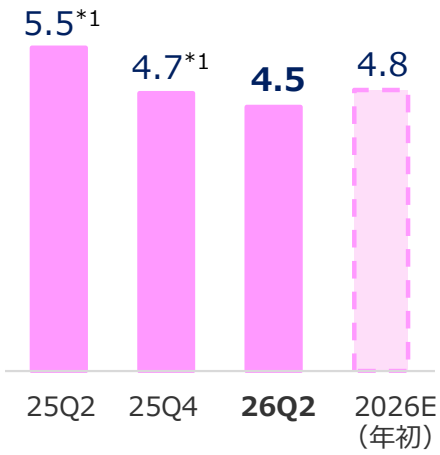
Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Japan Life（資産運用）：金利上昇に伴い、インカムゲインは順調に推移

■資産運用の主要KPI（一般勘定）

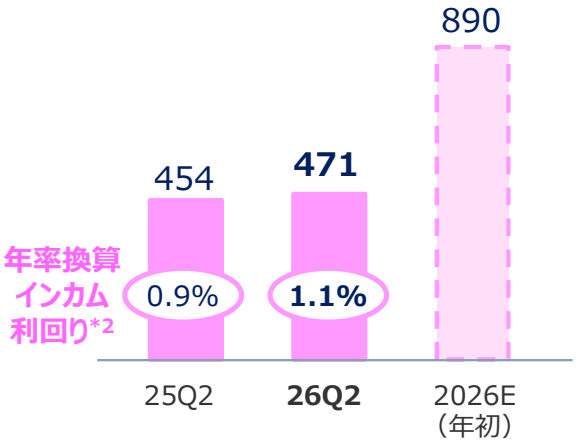
<AUM>

（兆円）



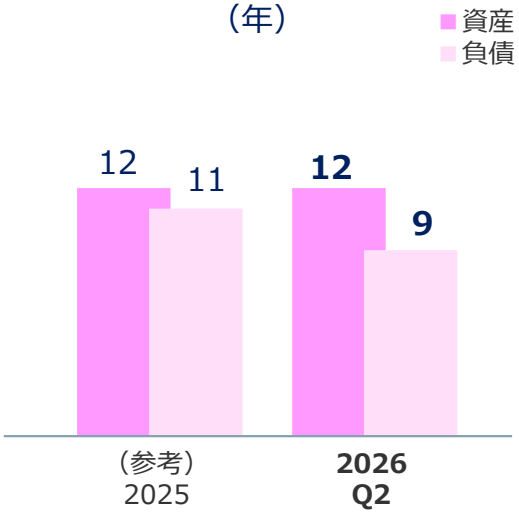
<インカムゲイン>

（億円）



<デュレーション>

（年）



<純資産価値*3の円金利感応度>

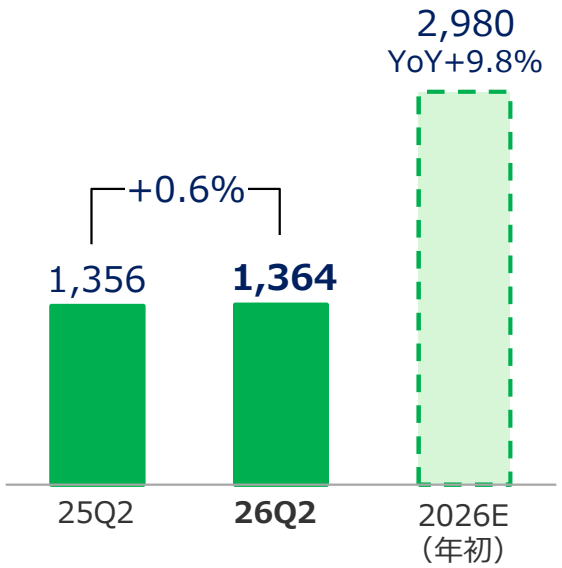
	（参考）2024	（参考）2025	2026 Q2
純資産価値（実績・兆円）	1.3	1.2	**1.2**
円金利 +10bp時の純資産価値の変動（億円）	▲100	▲50	**▲75**

*1: 25年度のブロック出再により、資産・負債ともに残高が減少したため、25Q2と25Q4の差が大きい
*2: 簿価利回り（ヘッジコスト考慮後）*3: 純資産（AL単体）+CSM（税引き後）

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

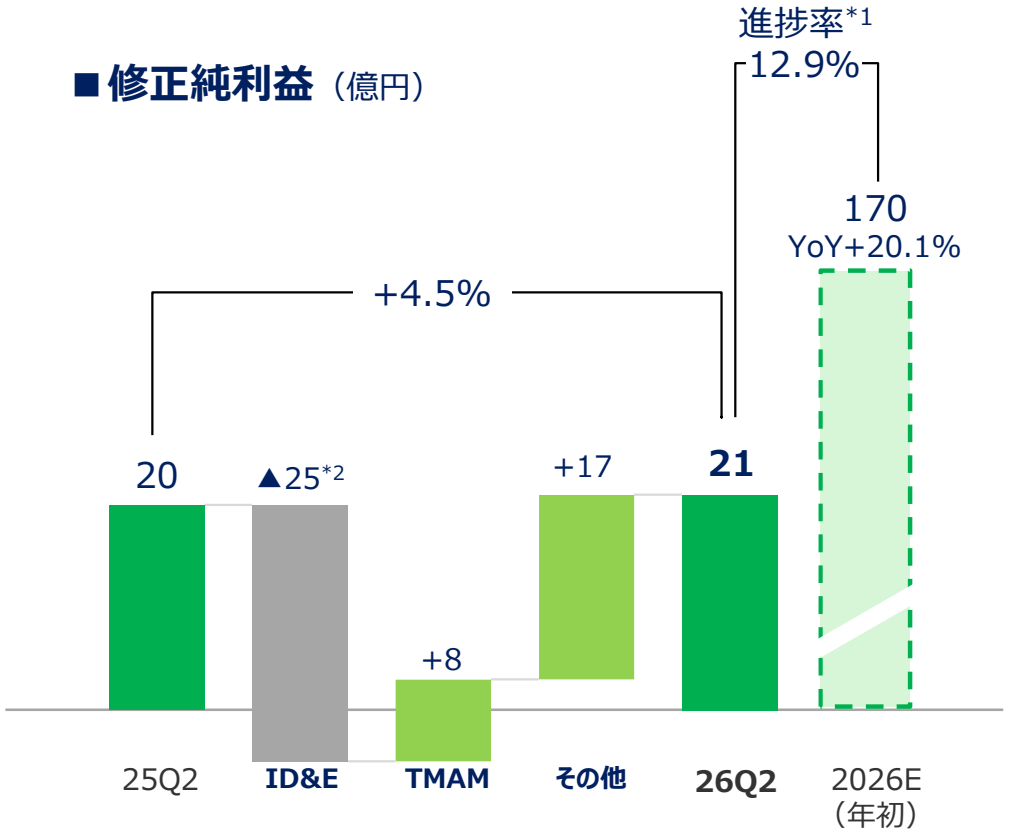
Solution： ID&Eの官需減や為替差損等により、修正純利益は計画を下回って推移

■売上高（億円）



	25Q2	26Q2	YoY	(参考) 2026E(年初) 増減率
ソリューション売上高	1,356	1,364	+0.6%	+9.8%
うち、ID&E	916	844	▲7.9%	+10.2%
うち、TMAM	160	202	+26.2%	+12.9%

■修正純利益（億円）



26Q2	▲25	29	17
25Q2	0	21	0
2026E (年初)	100	60	10

*1: 進行基準会計により公共案件の利益計上が第4四半期に偏る傾向があり、期中の進捗率は低くなる構造
*2: 25Q2には24Q4までに完了したプロジェクトに係る計上ズレの影響が含まれているが、
26Q2には同影響がないため、YoYでは減益となる

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

2026年度 修正予想（IFRS）

- Group ・・・・・・ P. 25
- International事業 ・・・・・・ P. 26
- Japan事業 (P&C) ・・・・・・ P. 32
- (Life) ・・・・・・ P. 38
- Solution事業 ・・・・・・ P. 41

<ご参考>

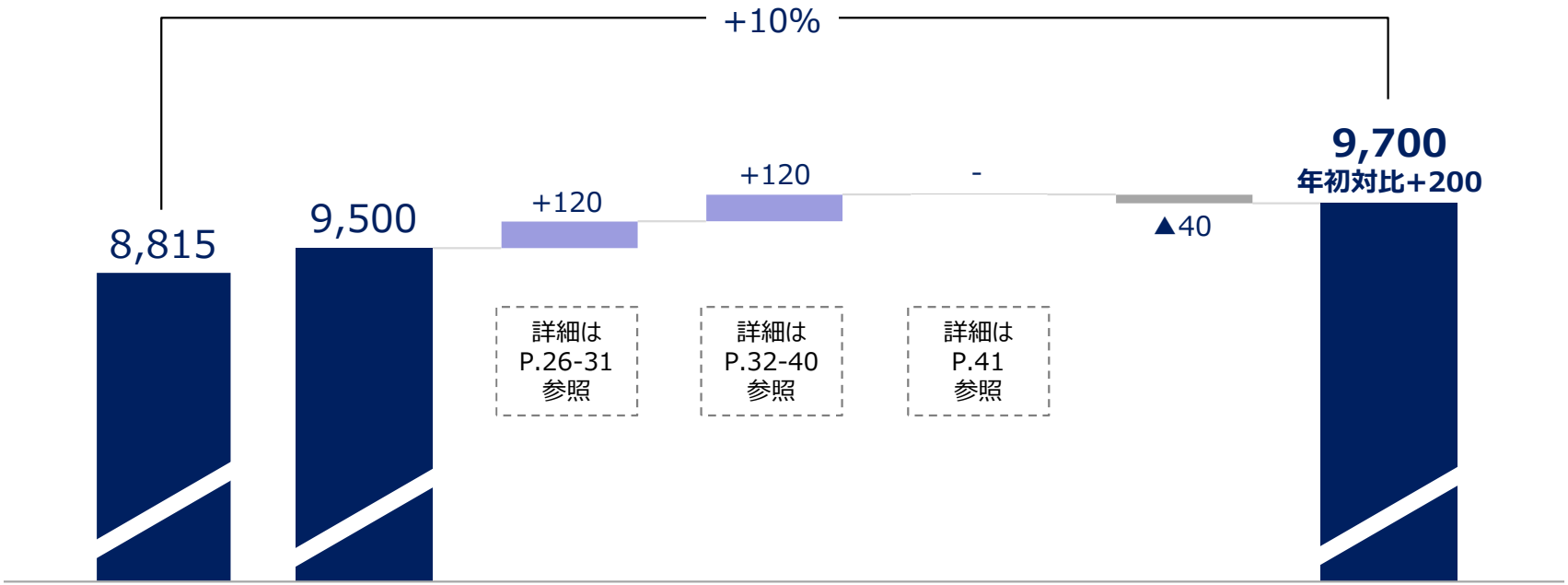
	為替レート（ドル／円）	
	年初予想	修正予想
International	159.88円（26年3月末レート）	158.42円（平均レート*）
Japan		157.35円（26年9月末レート）

*: 計算方法はP.51（海外会社の修正予想）を参照

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Group (修正純利益) ：年初予想対比+200億円の上方修正

■**修正純利益**（億円）



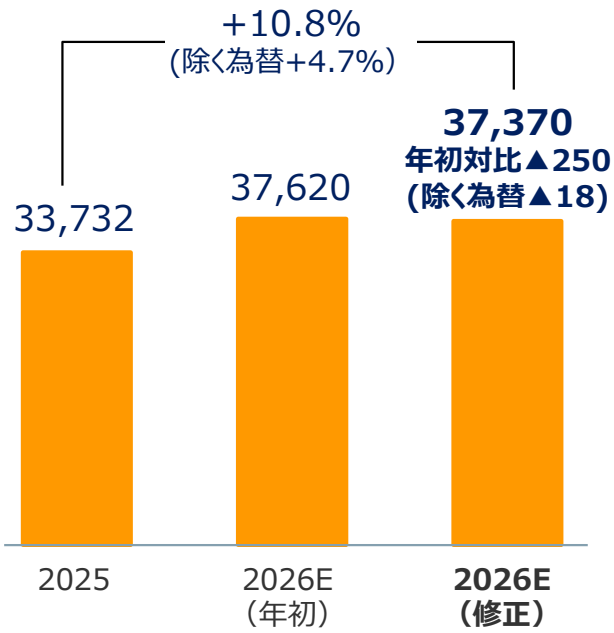
	International	Japan	Solution	その他
2026E (修正)	**6,460**	**3,170**	**170**	**▲100**
2026E (年初)	6,340	3,050	170	▲60

Japan P&C	Japan Life
2,340	**830**
2,230	820

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

International（トップライン）：ソフト化の影響はあるものの、全体としては年初予想対比横ばい

■正味収入保険料（億円）



	① 2025	② 2026E (年初)	③ **2026E (修正)**	**③-② 年初対比 (除く為替)**	**③/① YoY (除く為替)**
International Total	33,732	37,620	**37,370**	**▲250 (▲18)**	**+10.8% (+4.7%)**
North America	23,463	25,670	**25,580**	**▲90 (+145)**	**+9.0% (+3.7%)**
うち、Specialty P&C ライン*1	16,922	18,590	18,320	▲270 (▲99)	+8.3% (+2.9%)
うち、Employee Benefits ライン*2	6,540	7,080	7,250	+170 (+234)	+10.8% (+5.4%)
EMEA	2,718	3,110	**2,990**	**▲120 (▲140)**	**+10.0% (+3.6%)**
LATAM	3,684	4,420	**4,440**	**+20 (+18)**	**+20.5% (+8.3%)**
APAC	3,335	3,790	**3,780**	**▲10 (+0)**	**+13.3% (+7.7%)**

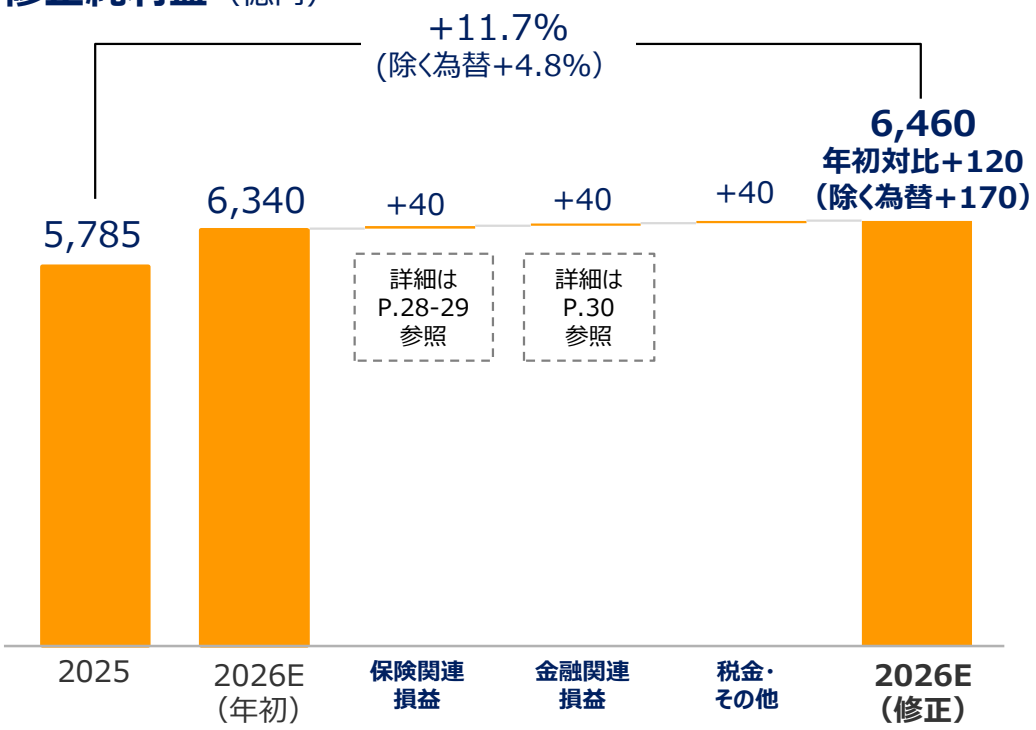
- North America
  - Specialty P&C ライン*1　：中小企業向け保険等は好調なものの、一部種目におけるソフト化の状況（ボトム重視のU/Wを徹底）を踏まえ、下方修正
  - Employee Benefits ライン*2：メディカルストップロスの好調なレートアップを主因に、上方修正
- EMEA　足元のソフト化の状況（ボトム重視のU/Wを徹底）を踏まえ、下方修正
- LATAM　競争環境が激化する中でも、着実に引受を拡大し、年初予想対比横ばい
- APAC　マレーシアやシンガポールで好調なものの、豪州における減収等を織り込み、年初予想対比横ばい

*1: PHLY、TMHCC（傷害・医療保険を除く）、SNCC等で引き受けているSpecialty保険。Pureは含まない
*2: RSLにおける企業向け従業員福利厚生保険及びTMHCCにおける傷害・医療保険
（上記全ての注については、P.28-29も同様）

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

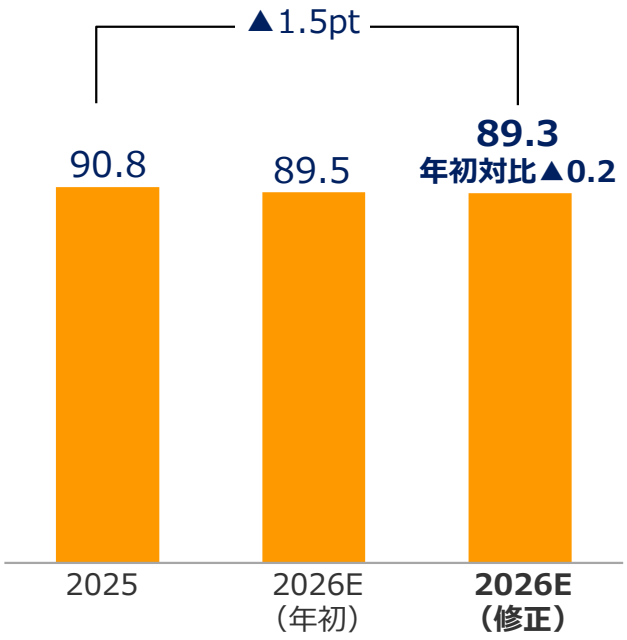
International（ボトムライン）：保険引受と資産運用がともに堅調に推移し、年初予想を上方修正

■修正純利益（億円）



2026E (修正)	**5,190**	**3,750**	**▲2,480**
2026E (年初)	5,150	3,710	▲2,520

■C/R（%）



C/R	90.8	89.5	**89.3**
L/R	61.1	59.6	**59.7**
うち、割引効果	▲4.8		
うち、自然災害	1.0	2.3	1.7
うち、過年度リザーブ	1.6		
E/R	29.7	29.9	**29.5**

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

International（保険関連損益）：North Americaの好調な保険引受により、年初予想を上方修正

（税前、億円）	① 2025	② 2026E （年初）	③ **2026E （修正）**	**③-② 年初対比 （除く為替）**	**③/① YoY （除く為替）**
International Total*1	4,042	5,150	**5,190**	**+40 (+80)**	**+28.4% (+20.7%)**
North America*2	3,894	4,230	**4,490**	**+260 (+297)**	**+15.3% (+9.7%)**
うち、Specialty P&C ライン	3,003	3,080	3,400	+320 (+347)	+13.2% (+7.7%)
うち、Employee Benefits ライン	357	460	490	+30 (+34)	+37.2% (+30.5%)
EMEA	202	230	**110**	**▲120 (▲119)**	**▲45.8% (▲48.1%)**
LATAM	235	360	**340**	**▲20 (▲20)**	**+44.5% (+29.9%)**
APAC	▲376	350	**240**	**▲110 (▲109)**	**-**

- North America
  Specialty P&C ライン　：堅調な保険引受や、自然災害の年初予想対比減少（+約160億円）を見込むことにより、上方修正
  Employee Benefits ライン：足元の好調な業績を織り込み、上方修正
- EMEA　中東情勢関連等の大口ロスの影響を主因として、下方修正
- LATAM　足元の業績は堅調なものの、価格競争のさらなる激化とエルニーニョ現象に伴う損害の増加を織り込み、年初予想対比概ね横ばい
- APAC　マレーシアや台湾等で保険引受は好調なものの、豪州Greensill訴訟に係るリザーブ積増しを主因に下方修正

*1: North America, EMEA, LATAM, APACの合計と一致しない主因は、主要地域に紐づかないグループ再保険等が含まれるため
*2: Specialty P&Cライン、Employee Benefitsライン、保険関連のフィービジネス(Pure等)で構成

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

International（保険関連損益）：North Americaの好調な保険引受により、年初予想を上方修正

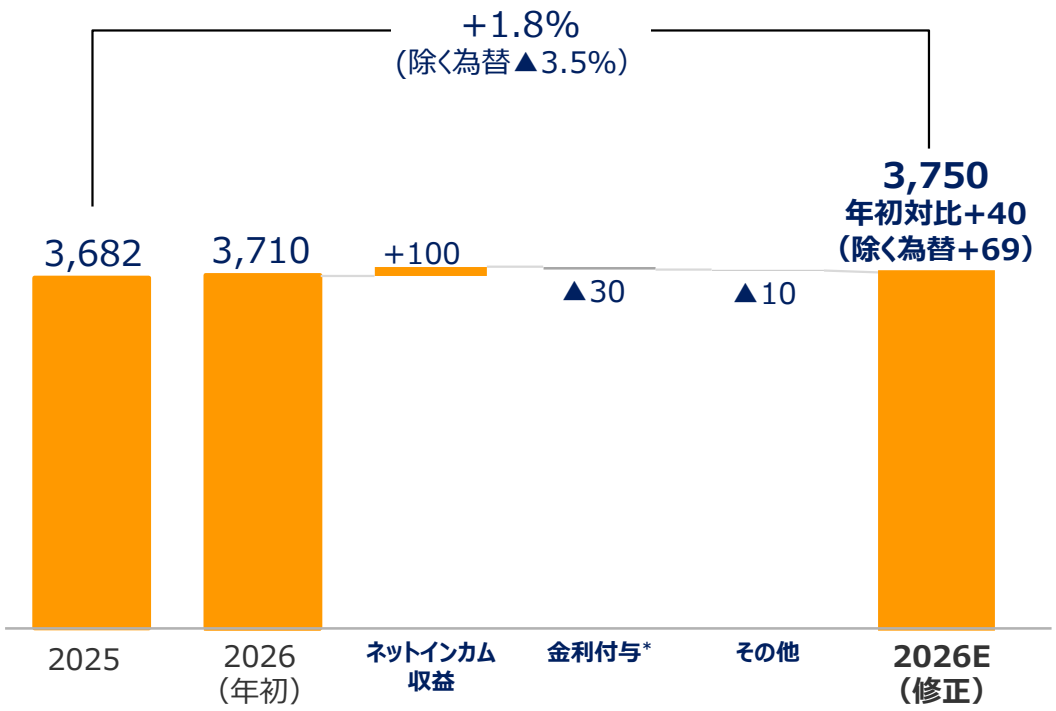
*：C/Rに与える影響

	C/R					自然災害の影響*				
	① 2025	② 2026E （年初）	③ **2026E （修正）**	**③-② 年初対比**	**③-① YoY**	① 2025	② 2026E （年初）	③ **2026E （修正）**	**③-② 年初対比**	**③-① YoY**
International Total	90.8%	89.5%	**89.3%**	**▲0.2pt**	**▲1.5pt**	1.0pt	2.3pt	**1.7pt**	**▲0.6pt**	**0.6pt**
North America	88.1%	88.5%	**87.4%**	**▲1.1pt**	**▲0.7pt**	1.2pt				
うち、Specialty P&C ライン	85.4%	86.3%	84.8%	▲1.5pt	▲0.6pt	1.7pt				
うち、Employee Benefits ライン	95.3%	94.3%	94.3%	▲0.0pt	▲1.1pt	-				
EMEA	93.2%	93.1%	**97.0%**	**+3.8pt**	**+3.8pt**	0.5pt				
LATAM	93.8%	92.6%	**92.8%**	**+0.2pt**	**▲1.0pt**	-				
APAC	113.7%	91.1%	**95.2%**	**+4.1pt**	**▲18.6pt**	0.4pt				

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

International（金融関連損益）：米金利上昇によるインカム収益の上振れを踏まえ、上方修正

■金融関連損益（修正純利益ベース、税前、億円）



2026E (修正)	**7,230**	**▲3,570**	**100**
2026E (年初)	7,130	▲3,540	110

- ネットインカム収益

  米金利上昇によるネットインカムの増加を見込み、上方修正
  （詳細はP.31参照）

- 金利付与*

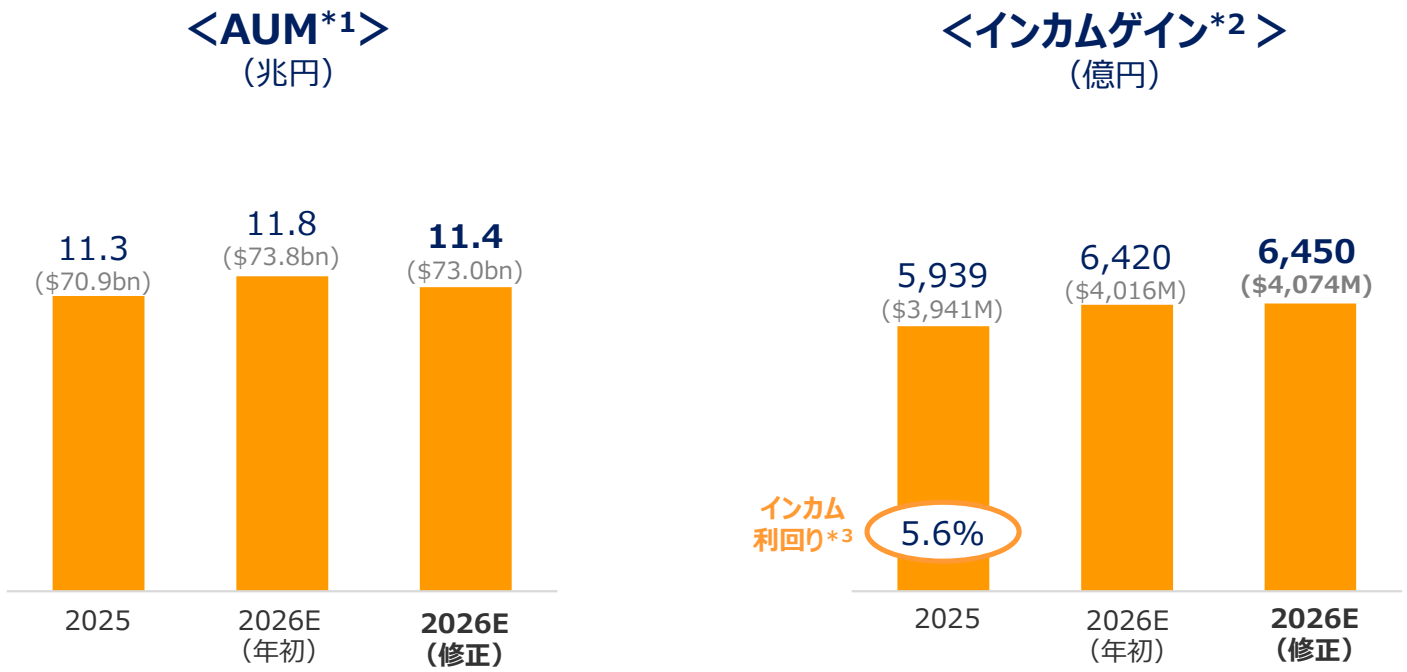
  年初予想対比で概ね横ばい

*:保険負債および投資契約負債等に対する金利付与（Unwind）による費用。投資契約負債については、当該負債に係る利息相当の費用を含む

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

International（資産運用）：米金利上昇を背景に、インカムゲインを若干上方修正

■北米資産運用の主要KPI

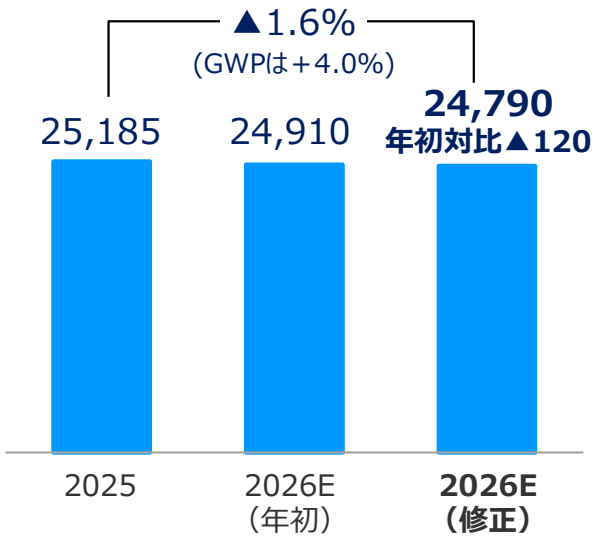


*1: 25年度実績、26年度年初予想は26年3月末レート（159.88円/USD）、26年度修正予想は26年9月末レート（157.35円/USD）で換算
*2: 25年度実績は期中平均レート（150.66円/USD）、26年度年初予想は26年3月末レート（159.88円/USD）、26年度修正予想は平均レート（158.42円/USD）で換算
*3: 簿価利回り

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Japan P&C（トップライン）：火災の収益改善の取組みに伴う減収を主因に下方修正

■正味収入保険料・NWP（民保計、億円）



民保計・億円 ()カッコ内の数字はGWP	① 2025	② 2026E （年初）	③ **2026E （修正）**	**③-② 年初対比**	**③/① YoY**
Japan P&C合計	25,185 (28,366)	24,910 (29,630)	**24,790 (29,500)**	**▲120 (▲130)**	**▲1.6% (+4.0%)**
うち、自動車	13,519 (13,578)	13,700 (14,520)	13,720 (14,470)	+20 (▲50)	+1.5% (+6.6%)
うち、火災	4,652 (5,595)	4,260 (5,550)	4,260 (5,480)	- (▲70)	▲8.5% (▲2.1%)
うち、Specialty	7,013 (9,192)	6,960 (9,560)	6,810 (9,550)	▲150 (▲10)	▲2.9% (+3.9%)

■ GWPは火災の収益改善の取組みに伴う減収を主因に、下方修正

- 自動車
  年初予想をほぼ据え置き
- 火災
  収益改善の取組みに伴う減収を織り込み、下方修正
- Specialty
  年初予想をほぼ据え置き

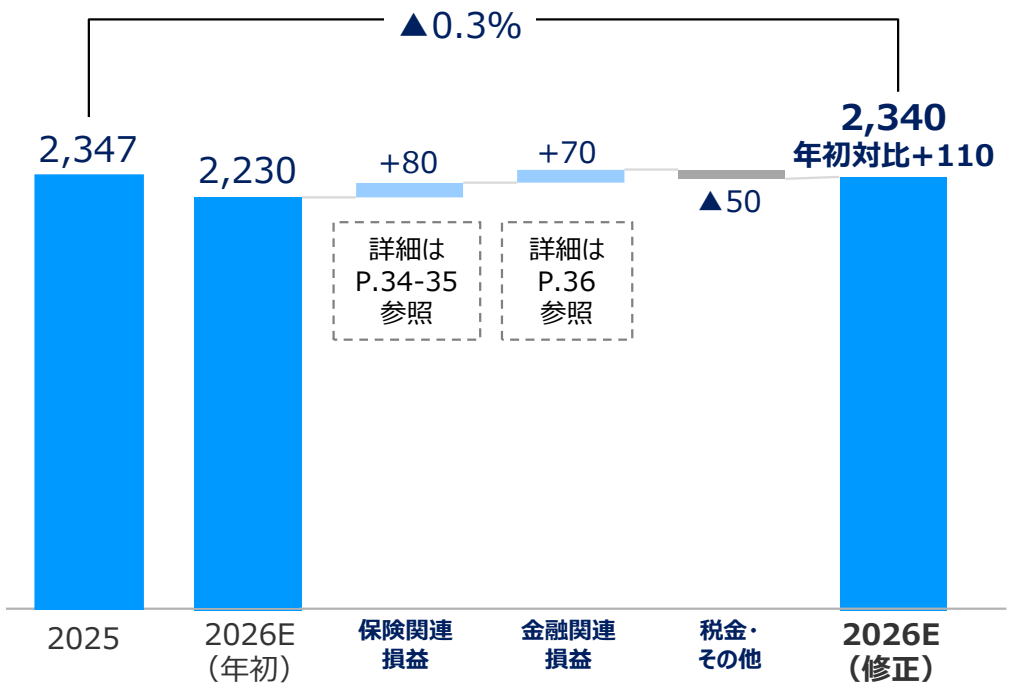
■ NWPはGWPの減少を主因に、下方修正

(種目別には再保険影響の精緻化による増減が含まれる)

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

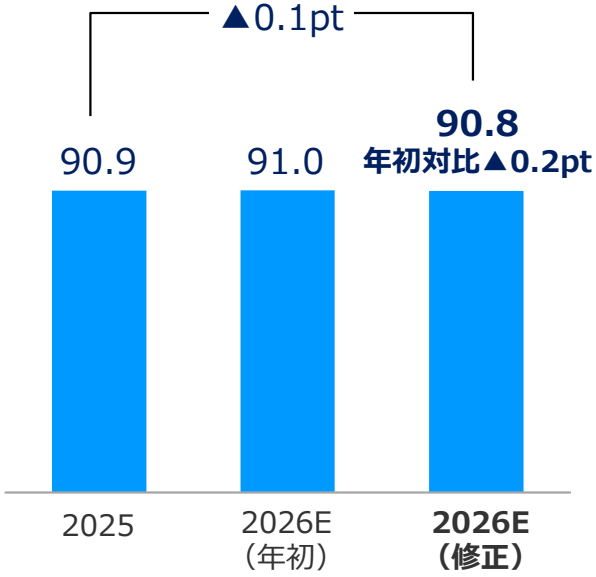
Japan P&C（ボトムライン）：自然災害が想定を下回ったことと、賠責の収益改善を主因に上方修正

■修正純利益（億円）



2026E（修正）	**2,740**	**640**	**▲1,050**
2026E（年初）	2,660	570	▲1,000

■C/R（民保計・%）



C/R	90.9	91.0	**90.8**
L/R	63.4	63.7	**63.4**
うち、割引効果	▲0.5		
うち、自然災害	2.0	3.5	**3.1**
うち、過年度リザーブ	0.9		
E/R	27.5	27.3	**27.4**

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Japan P&C（保険関連損益）：自然災害が想定を下回ったことと、賠責の収益改善を主因に上方修正

（税前、民保計・億円）	① 2025	② 2026E （年初）	③ 2026E （修正）	③-② 年初対比	③/① YoY
Japan P&C合計	2,568	2,660	**2,740**	**+80**	**+6.7%**
自動車	176	580	**470**	**▲110**	**+167.0%**
火災	1,513	1,170	**1,330**	**+160**	**▲12.1%**
Specialty	878	910	**940**	**+30**	**+7.1%**

- 自動車

  事故頻度は年初予想を据え置く一方、インフレの加速により保険金単価が上振れることを見込み、下方修正

前年同期比	【2026E(修正)】	【2026E(年初)】
事故頻度	±0%	±0%
保険金単価 (車両・対物)	+8%	+6%

- 火災

  自然災害や大口事故の減少を織り込み、上方修正

- Specialty

  1Qの大口事故の影響を、賠償責任保険等の収益改善効果が上回ることを見込み、上方修正

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Japan P&C（保険関連損益）：自然災害が想定を下回ったことと、賠責の収益改善を主因に上方修正

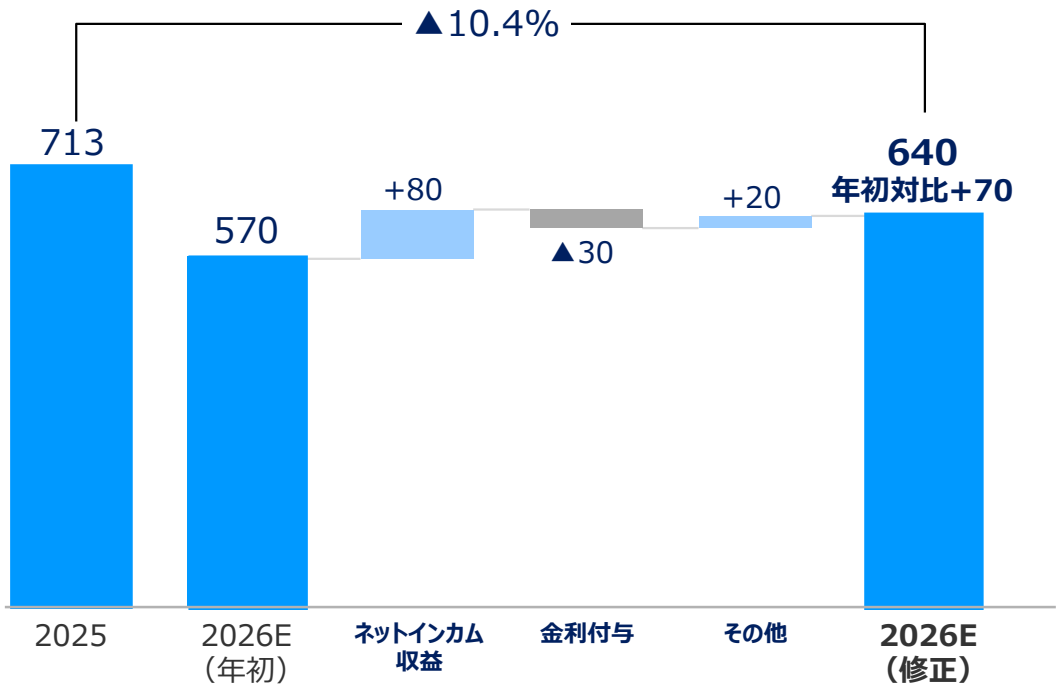
*: L/Rに与える影響

（民保計）	L/R					自然災害の影響*				
	① 2025	② 2026E（年初）	③ 2026E（修正）	③-② 年初対比	③-① YoY	① 2025	② 2026E（年初）	③ 2026E（修正）	③-② 年初対比	③-① YoY
Japan P&C合計	63.4%	63.7%	**63.4%**	**▲0.4pt**	**▲0.1pt**	2.0pt	3.5pt	**3.1pt**	**▲0.5pt**	**+1.1pt**
自動車	67.8%	66.1%	**66.5%**	**+0.4pt**	**▲1.3pt**	1.0pt	1.5pt	**1.4pt**	**▲0.1pt**	**+0.4pt**
火災	47.2%	52.7%	**50.3%**	**▲2.4pt**	**+3.1pt**	7.3pt	13.5pt	**11.7pt**	**▲1.8pt**	**+4.3pt**
Specialty	67.1%	66.8%	**66.7%**	**▲0.1pt**	**▲0.4pt**	0.3pt	0.5pt	**0.3pt**	**▲0.2pt**	**+0.1pt**

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Japan P&C（金融関連損益）：好調なインカムを主因に上方修正

■ **金融関連損益**（修正純利益ベース、税前、億円）



2026E（修正）	**1,310**	**▲360**	**▲310**
2026E（年初）	1,230	▲330	▲330

- ネットインカム収益

  ファンドからのインカム増加を主因に、上方修正

- 金利付与*

  金利上昇を主因に、下方修正

- その他

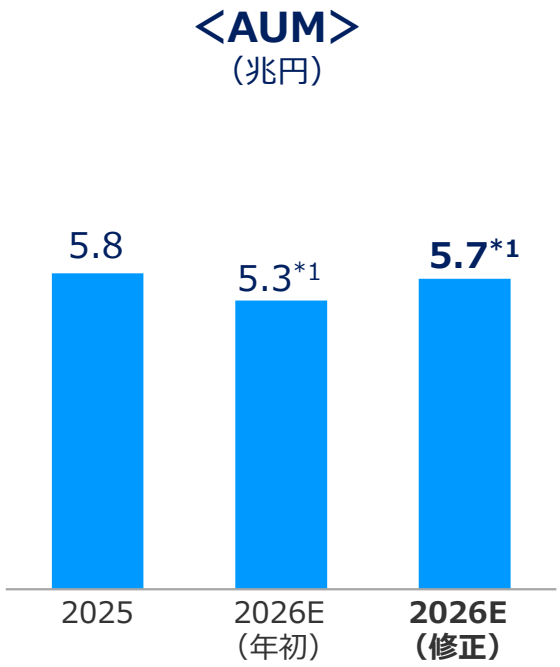
  日米金利差縮小に伴うヘッジコスト減少により、上方修正

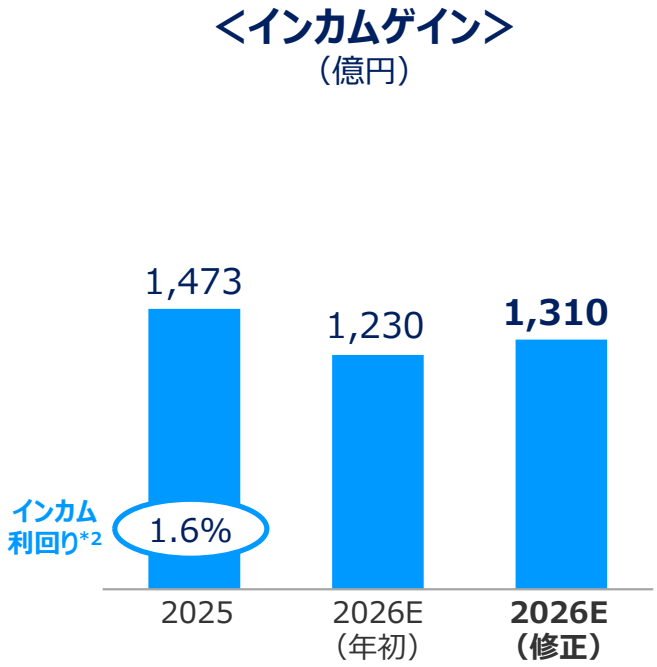
*：保険負債に対する金利付与（Unwind）による費用

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Japan P&C（資産運用）：上期実績を織り込み、インカムゲインを上方修正

■資産運用の主要KPI



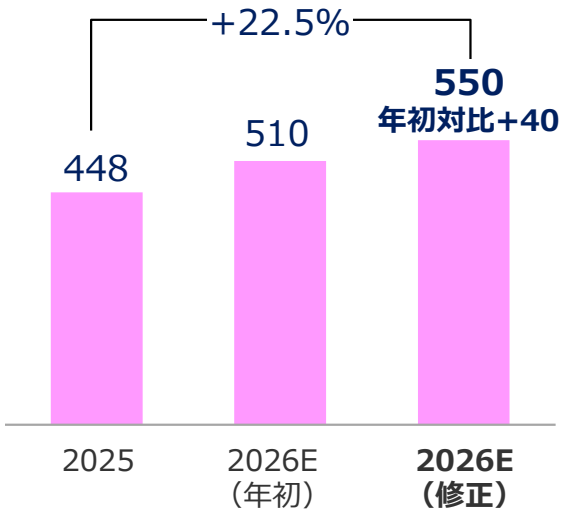


*1: 政策株式売却予定額は、年初計画4,300億円から4,900億円に+600億円上方修正（売却益は、年初計画3,900億円から4,400億円に＋500億円上方修正）
*2: TMNFのALM対応債券等の簿価利回り

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

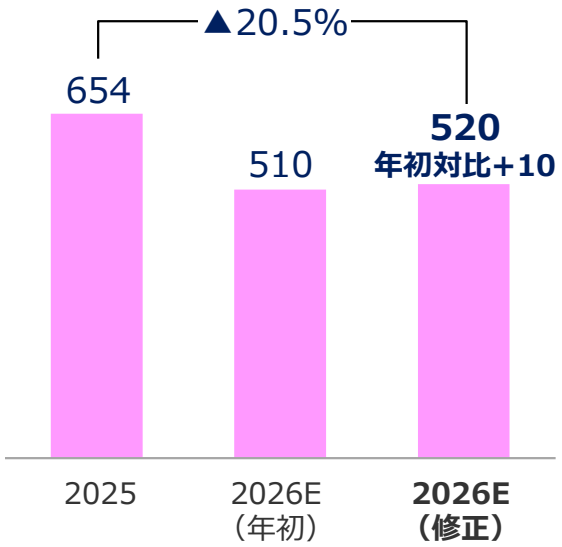
Japan Life（新契約）：販売好調を織り込み、ANPを上方修正

■ANP（新契約年換算保険料、億円）



- 回払変額保険や積立利率変動型一時払終身保険*（25年9月発売）の販売好調を織り込み、上方修正

■新契約CSM（億円）



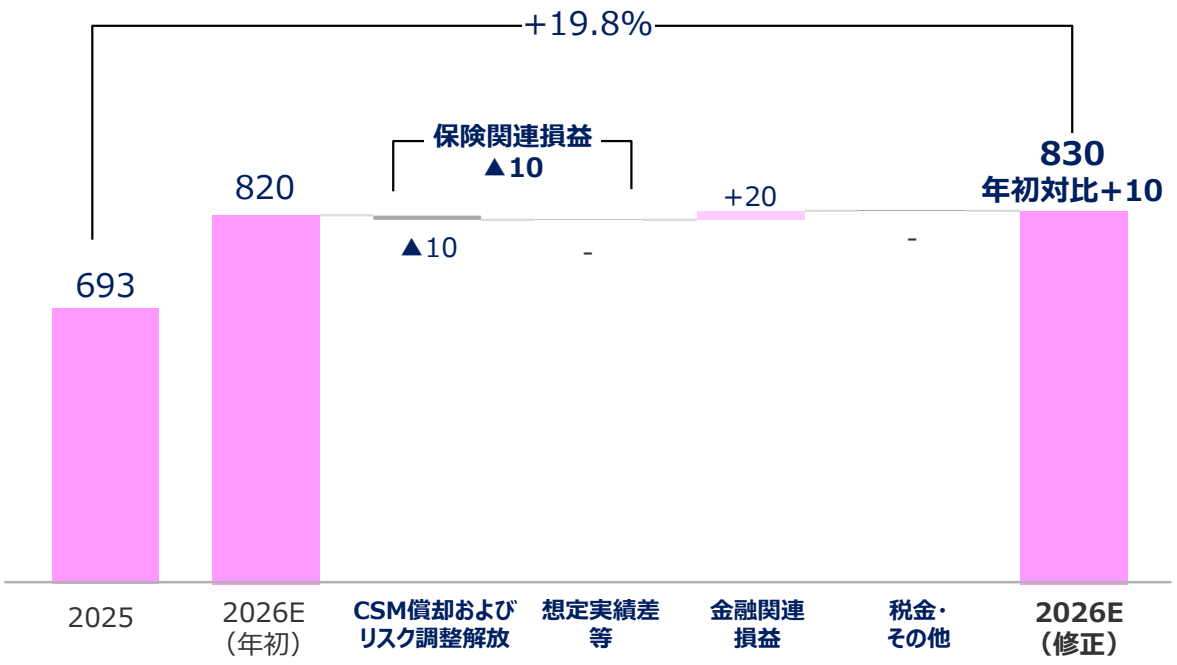
- 年初予想をほぼ据え置き

*: MVA（市場価格調整機能）を備えることで動的解約リスクを抑制している

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Japan Life（ボトムライン）：金利上昇に伴うインカムゲインの増加を主因に上方修正

■修正純利益（億円）



2026E（修正）	**1,180**	**▲10**	**-**	**▲340**
2026E（年初）	1,190	▲10	▲20	▲340

- 保険関連損益

  年初予想をほぼ据え置き

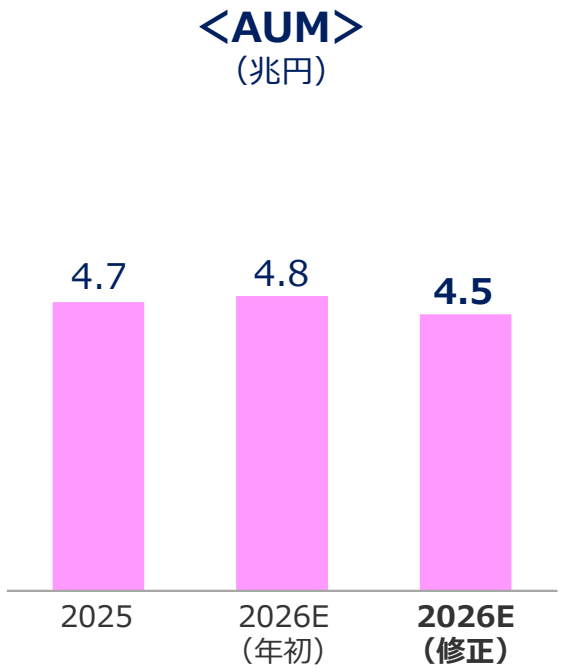
- 金融関連損益

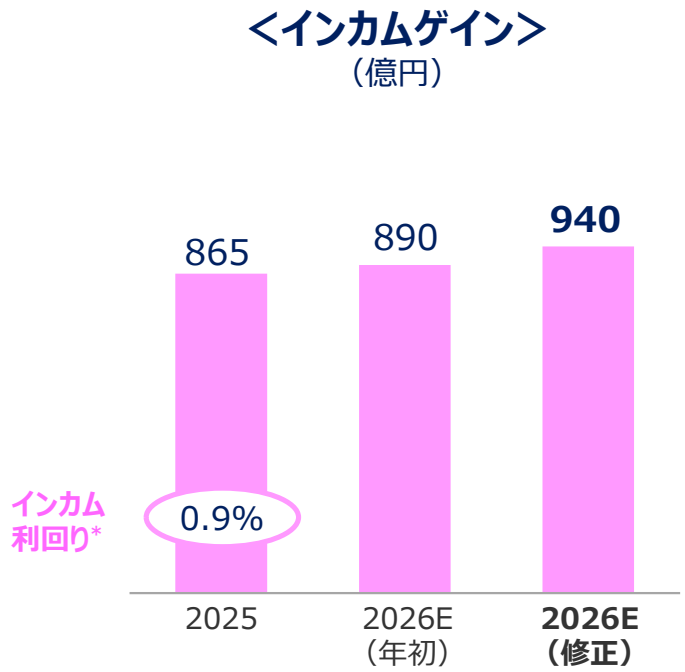
  金利上昇に伴う金融派生商品費用の増加の一方、インカムゲインの増加を織り込み、上方修正

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

Japan Life（資産運用）：金利上昇に伴いインカムゲインを上方修正

■資産運用の主要KPI（一般勘定）



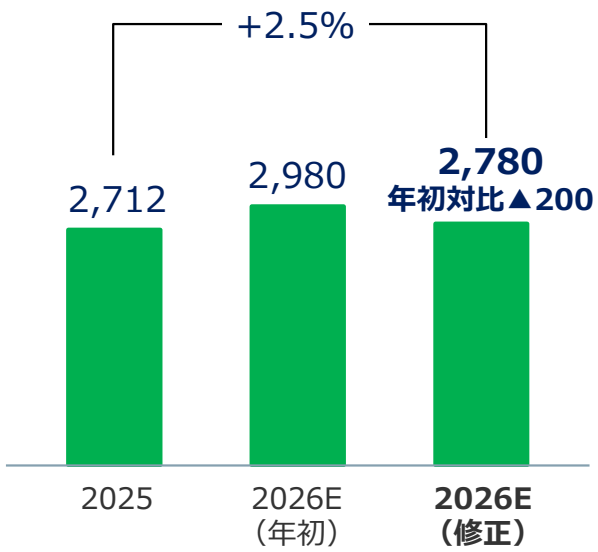


Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

*：簿価利回り（ヘッジコスト考慮後）

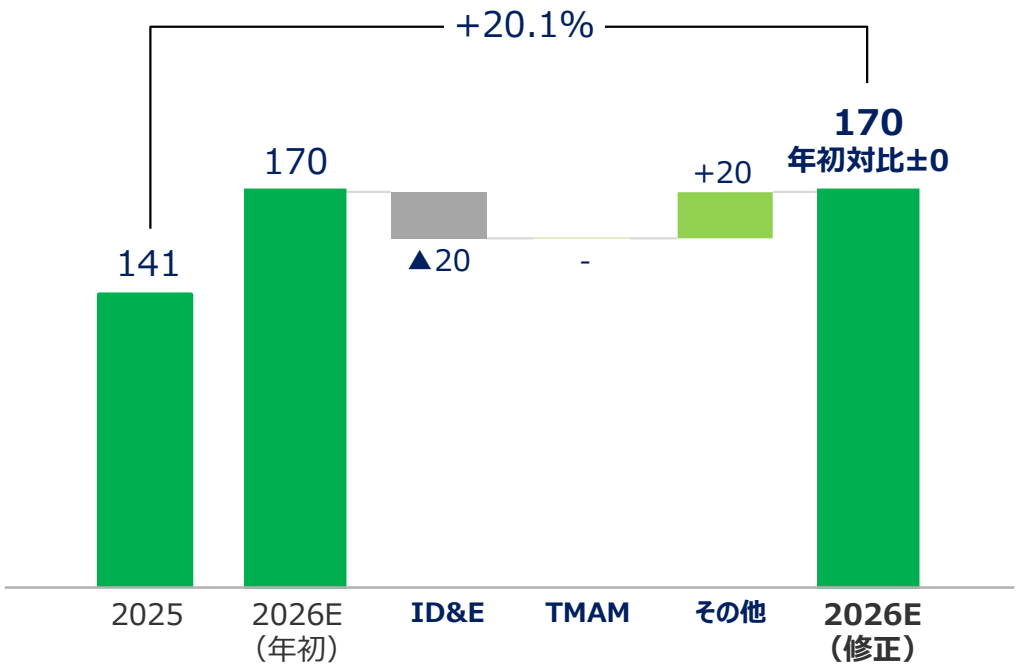
Solution：ID&Eでの減益を見込むも、セグメント全体では年初予想を維持

■売上高（億円）



	① 2025	② 2026E （年初）	③ 2026E （修正）	③-② 年初対比	③/① YoY
ソリューション売上高	2,712	2,980	2,780	▲200	+2.5%
うち、ID&E	1,678	1,850	1,680	▲170	+0.1%
うち、TMAM	372	420	410	▲10	+10.2%

■修正純利益（億円）



2026E （修正）	80	60	30
2026E （年初）	100	60	10

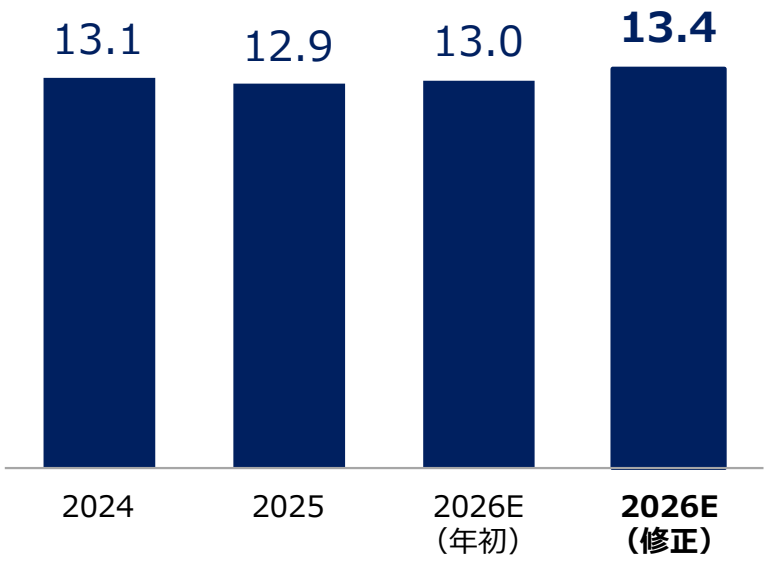
Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

参考資料

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

ROEのトラックレコード

■修正ROE（%）



（億円）	2024	2025	2026E(年初)	**2026E(修正)**
修正ROE	13.1%	12.9%	13.0%	**13.4%**
修正純利益	8,120	8,815	9,500	**9,700**
修正純資産（平残）	62,047	68,111	73,121	**72,521**
期首残高	59,702	64,391	71,832	71,832
期末残高	64,391	71,832	74,410	73,210
（参考） 政策株式売却に伴う 修正純資産増加額	+6,061	+4,932	+2,700	+3,000

$$\text{修正ROE} = \frac{\text{修正純利益}}{\text{財務会計純資産} - \text{含み損益}}$$

IFRSでは、政策株式の含み益は修正純資産（分母）に含まれない

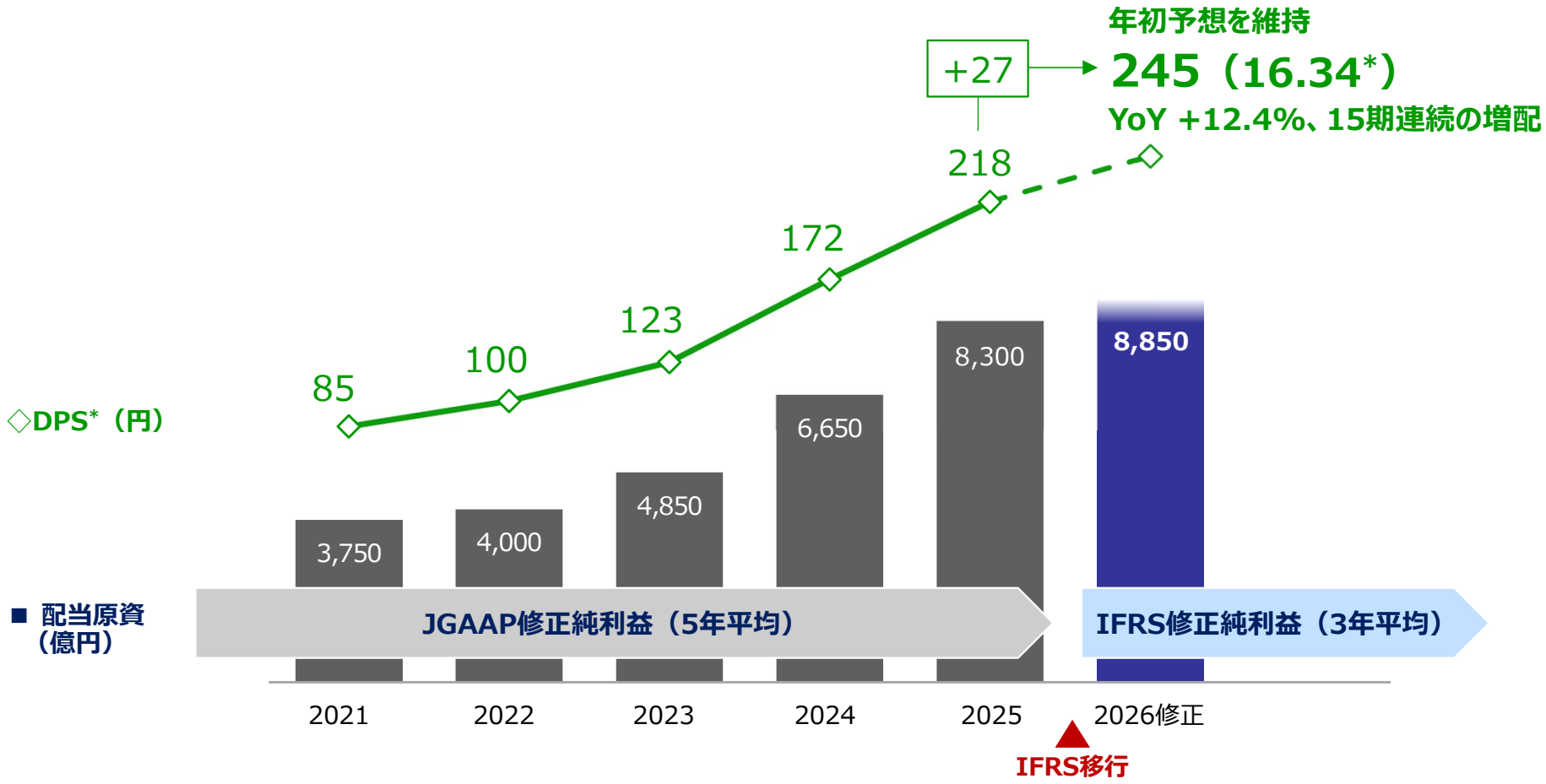
修正純利益（分子）は着実に成長

政策株式売却に伴い、修正純資産（分母）が増加
（含み益が実現化されるため）

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

配当

- 配当は、IFRS修正純利益（3年平均）を配当原資とし、配当性向は50%を原則としている
- 2026年度DPSは、会計基準・KPI定義変更の端境期であることから、従来との継続性も考慮し、+27円増配の245円（YoY+12.4%）とした年初予想通り
- 引続き、「世界トップクラスのEPS Growthと整合的なDPS Growth」を実現していく



Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

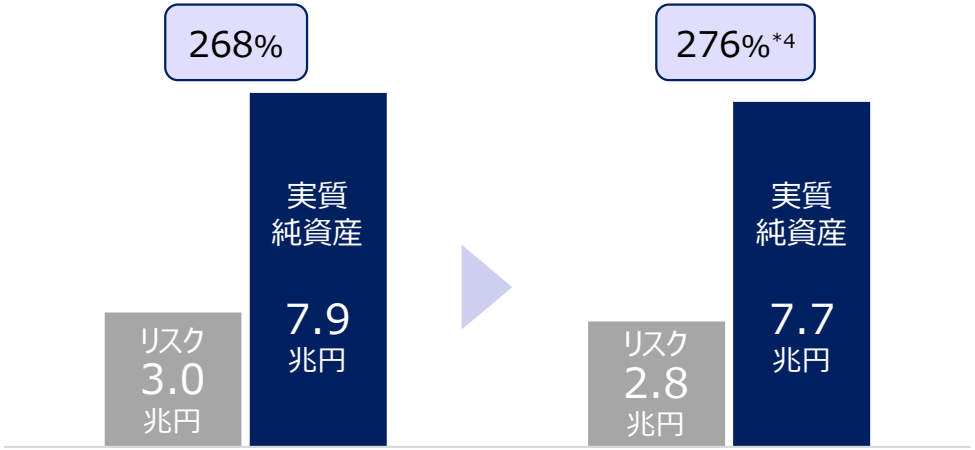
*: 2026年10月の株式分割（15分割）後ベース

ESRの推移と感応度

【ESRの定義】 ・リスク量計算の信頼水準：99.5%VaR　・移動制約資本：控除しない　【ESRのTarget】 190%以上

- グローバルピアとの比較可能性と、新資本規制[*1]との整合性を重視したもの[*2]
- 事業計画上の既存事業におけるリスクテイク拡大（新規事業やM&A等は含まない）は反映しない（新資本規制と同様の扱い）

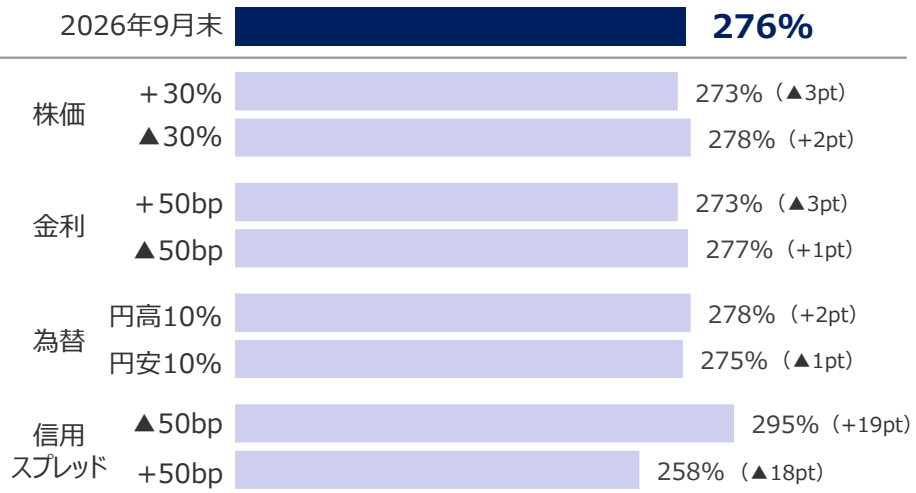
ESR[*3]の推移



2026年3月		2026年9月
51,063円	日経平均株価	66,753円
3.54%	30年円金利	4.02%
0.89%	信用スプレッド	0.80%
246%	(参考) 事業計画上のリスクテイク反映後	266%[*5]

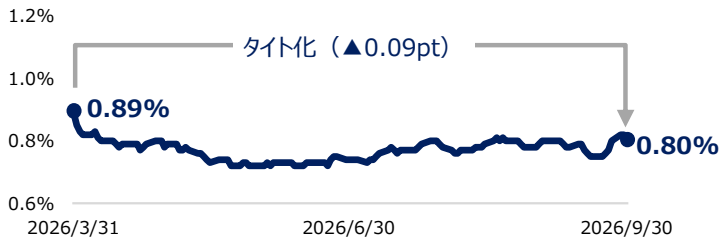
実質純資産の増減要因	リスク量の増減要因
↗ 政策株式の株価上昇	↗ 信用リスク資産の積増し
↗ 米国信用スプレッドのタイト化	↗ 政策株式の株価上昇
↘ 米国金利の上昇	↘ 政策株式の売却
↘ 事業投資（ボルトオンM&A）	↘ 米国金利の上昇　等

ESRの感応度（パラレルシフトが前提）



株価：政策株式の売却を大幅に加速
金利：ALM運用により金利変動の影響をコントロール
為替：ESRへの影響は限定的
信用：リスクリミットの範囲内でリスクテイクを許容

＜参考＞米国社債の信用スプレッドの推移[*6]



*1: 国際資本基準。日本においては、「経済価値ベースのソルベンシー規制」として、2025年度末より導入
*2: リスクや分散効果の計測には当社独自の手法（内部モデル）を用いるため、新資本規制と完全に一致するわけではない
*3: Economic Solvency Ratio（リスク量は99.5%VaRで計算）
*4: 自己株式取得2,800億円実施後では266%
*5: 自己株式取得2,800億円実施後では256%
*6: （出典）Bloomberg

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

自然災害発生保険金

■ 自然災害に係る正味発生保険金（修正純利益ベース、億円）

税引前	2025年度 2Q実績	2026年度 2Q実績	前年同期比*1	2026年度通期予想 ①年初	2026年度通期予想 ②今回	増減*1 (②-①)
Japan P&C	403	665	+261	1,050	910	▲140
International	166	185	+19	950	700	▲250
合計	569	850	+281	2,000	1,610	▲390

税引後*2						
Japan P&C	290	473	+182	750	640	▲110
International	131	144	+13	740	550	▲190
合計	422	617	+195	1,490	1,190	▲300

*1: +は収益にマイナス、▲は収益にプラス
*2: 税引後数値は概算

■ 2026年度の主な自然災害

Japan P&C	元受発生保険金（税引前）
令和8年7月熊本地震	197億円
令和8年8月千葉大雨	188億円
令和8年9月東海大雨	84億円
令和8年9月台風25号	69億円
令和8年5～6月台風6号	52億円

International	正味発生保険金（税引前）
該当なし	-

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

サイバーリスクを取り巻く環境と当社の対応状況

- サイバーリスクは、AIの普及・高度化や攻撃手法の多様化等を背景に複雑化
- 当社は規律ある引受とグループ横断のリスク管理を徹底し、良好な収益性を維持。今後も収益性を重視した選択的な成長を推進

概況：リスク環境と保険の対象

■ サイバーリスク環境の変化（AI普及による影響）

【攻撃側】脆弱性の探索や多言語での攻撃が容易になったことで、攻撃が増加・広域化

【防御側】迅速なパッチ対応等、基本的なセキュリティ対策の重要性が増大

【サイバー攻撃公表件数（2026年10月、前年同月比）】

世界	日本
約1.5倍[*1]	**約２～3倍**[*1,2] （当社相談窓口受付件数：**約3倍**）

*1: (出典) Check Point

*2: (出典) サイバーセキュリティクラウド

■ サイバーリスク保険の補償内容

一般に、サイバーリスク保険で補償される損失は以下の3種

	補償例
賠償責任	情報漏洩に対する賠償金
費用	フォレンジック費用・復旧費用・見舞金
事業中断（BI）	システム停止で生じた逸失利益

ただし、実際の補償範囲や支払限度額等は、各国・地域、各保険会社の引受方針や契約条件によって異なる。
(例)日本では、ランサムウェアによる身代金は対象外

当社の対応：引受規律の徹底とリスク管理

- グループ全体のP&Cポートフォリオのうち、**サイバーリスク保険は2%程度**
- 従来より、当社はCyber CoE[*3]による最新の市場動向・リスク情報の収集やCyber UW委員会における意思決定を通じて、**グループ横断で慎重かつ機動的なUWを実施**
- さらに事故前の予防/事故後の緊急対応・復旧支援等の**ソリューションを提供し、顧客のリスクを低減**

*3: Centre of Excellence

✓ 規律あるアンダーライティングによる収益性の確保（リスクの入口管理）

➢ **リスクに応じた引受の選別・条件設定**
- 顧客のセキュリティ対策状況等を評価し、引受可否・条件を判断
- 保険料規模の拡大よりも収益性を重視した引受を徹底

➢ **支払限度額の管理**
- 標準的な総支払限度額は、国内外ともに、**1契約あたり、1億円～数億円程度**
- 補償項目ごとに支払限度額(サブリミット)を設定

足元のインシデント増加を踏まえても、グループ全体の
2026年度サイバーリスク保険C/Rは100%を下回り、収益性を確保する計画

✓ 集積リスクのコントロール（リスクの総量管理）

上記入口管理に加え、グループ横断で**集積リスク・テールリスク[*4]をコントロール**

1. Exposureの把握・計測
- サイバーリスク(サイレントサイバーを含む)をグループ横断で把握
- グループ共通のリスクモデル・シナリオでリスク量を計測
- Single Point of Failure(単一障害による波及影響)等の集積分析も実施

2. 再保険の活用
- 最適な再保険(QS、XL[*5] 等)の活用により、保有リスクをコントロール

これらの取組みにより、グループ全体のリスク量を**リスク許容度の範囲内で管理**

*4: 共通クラウド等の障害による大規模・同時多発的な事故のリスク

*5:QS=Quota Share, XL= Excess of Loss

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

北米資産運用の現状

北米拠点全体のトータルリターン*1（税前・$M）

		2025年度 2Q実績	2026年度 2Q実績	増減	2026年度 年初予想	2026年度 修正予想（11月公表）	増減	（参考） 2025年度 通期実績
インカム*2		2,200	2,240	40	4,420	4,490	70	4,360
	うちローン	810	730	▲80	1,500	1,450	▲50	1,550
キャピタル		▲150	▲150	0	▲270	▲260	10	▲180
	うちローン	▲140	▲110	30	▲210	▲180	30	▲170
ECL		▲70	▲50	20				▲10
減損		▲80	▲50	30				▲170
売却損益等		0	▲50	▲50				0
合計*2		2,050	2,090	40	4,150	4,230	80	4,180
	うちローン	670	620	▲50	1,300	1,270	▲20	1,380

参考：ローンの引当状況

	2025年度 実績 (26年3月末)	2026年度 2Q実績 (26年9月末)
引当残高（$M）※カッコ内は引当率	840(4.8%)	820(4.8%)

*1: 年金ビジネスに係る調達コスト等は含まない
*2: 投資経費等控除前のグロスインカムベース

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

CREローンの現状

トータルリターン（グループ全体、税前・$M）

	2025年度 2Q実績	2026年度 2Q実績	増減
インカム*1	480	370	▲110
キャピタル	▲10	▲70	▲60
うちECL	30	▲10	▲40
うち減損	▲50	▲40	10
うち売却損益等	10	▲20	▲30
合計*1	470	310	▲170

2026年度 年初予想	2026年度 修正予想（11月公表）	増減
760	720	▲30
▲80	▲80	-
680	650	▲30

2025年度 通期実績
870
80
220
▲130
▲20
950

LTV*2別のECL引当の状況（グループ全体、税前・$M）

LTV*2	ローン残高*3			
	2025年度 実績（26年3月末）	構成比	2026年度 2Q実績（26年9月末）	構成比
≦100%	5,180	64%	4,900	66%
100-125%	1,690	21%	1,390	19%
125-150%	790	10%	730	10%
150%+	490	6%	450	6%
合計	**8,140**	**100%**	**7,470**	**100%**

ECL引当率	
2025年度 実績（26年3月末）	2026年度 2Q実績（26年9月末）
2.1%	1.7%
11.2%	15.3%
22.7%	23.5%
46.5%	46.7%
8.7%	**9.1%**

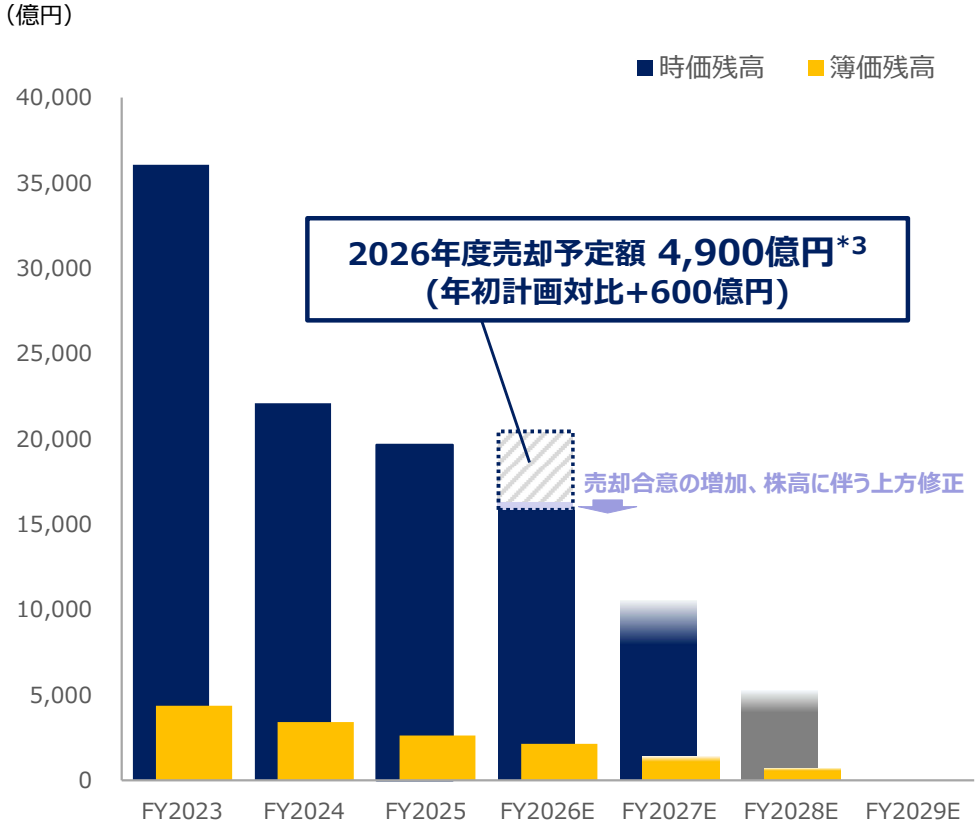
*1: 投資経費等を控除前のグロスインカムベース
*2: Loan To Value。LTV計算における物件評価額は、見積もりを含んだ数値
*3: ECLをネットしていないグロスベースの残高（ワークアウトに伴う差押え案件除く）。なお、差押え案件を含む2026年9月末残高は$9.4bn（2027年3月末の想定残高は、約$8.8bn）

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

政策株式の削減

- 「2029年度末までに、政策株式“ゼロ*1”」に向けた進捗は順調
- 2026年度通期の売却予定額は4,900億円と、年初計画対比+600億円上方修正
- IFRS純資産対比の保有割合は、株価上昇による保有時価（分子）の増加、金利上昇による債券時価下落に伴う純資産（分母）の減少の影響を受けるものの、2026年度末には20%程度*2まで低下する見込み

政策株式の売却状況



純資産対比の保有割合

（億円）

区分	項目	FY2023	FY2024	FY2025	FY2026E 1H2026	FY2026E
時価ベース*4	年度末残高	36,056	22,092	19,643	17,392	15,952
	年度売却額	2,187	9,224	7,456	3,460	4,900
簿価ベース*4	年度末残高	4,378	3,407	2,623	2,286	2,142
	年度売却額	284	1,003	759	356	500
純資産対比の保有割合*5	IFRSベース			**24.5%**	**21.7%**	**20%程度***2
	JGAAPベース	69.8%	43.7%			

*1: 非上場株式（26.9末時価・簿価約190億円）および資本業務提携による出資等は除く

*2: 計算の前提条件：分子は26.9末の時価ベースの残高（TMHD）から2026年度下期売却予定額を控除して算出。分母は27.3末の連結純資産（予想）を使用

*3: 上期売却額3,460億円と下期売却予定額1,440億円（9月末時価ベース）の合計

*4: TMNFが保有する「非上場以外の株式」および「非上場株式」の合計

*5: 分子は、TMHD（連結）が保有する「非上場以外の株式」および「非上場株式」の時価ベースの年度末残高

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

為替変動のグループへの影響

■ 修正純利益への影響額と米ドル円の適用為替レート



（ご参考）1円の円安進行*1があった場合の修正純利益への影響（概算）

- TMNFにおける外貨建保険負債等*2： **▲約20億円**
- 海外子会社利益の増加： **＋約40億円**

＊1: 各通貨の為替が米ドルと同様の比率で変動する前提。
海外会社については、通期実績に適用される期中平均為替レートが1円円安となった場合の感応度を示している。
国内会社については、期末時点の為替レートが1円円安となった場合の感応度を示している

＊2: このうち、海外責任分の外貨建保険負債の影響▲約10億円は、海外事業の修正純利益に含まれる

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

各種指標の定義

■ 修正純利益・修正純資産・修正ROEの定義

修正純利益*1	=	連結当期純利益*2	-	ALM*3・ヘッジ関連損益	-	キャピタル損益*4	-	事業投資関連損益*5
修正純資産*1	=	連結純資産	-	含み損益（AOCI）				
修正ROE	=	修正純利益*1	÷	修正純資産*1,6				

■ 実質純資産の定義

実質純資産*1	=	連結純資産	-	のれん その他無形固定資産	-	株主還元予定額
			+	生保保有契約価値	+	その他

*1: 各調整額は税引き後
*2: 連結財務諸表上の「親会社の所有者に帰属する当期純利益」
*3: ALM＝資産・負債総合管理のこと。ALM負債時価変動見合いとして除外
*4: ALM・ヘッジ関連損益以外のキャピタル損益
*5: その他無形固定資産償却額等を含む
*6: 平均残高ベース

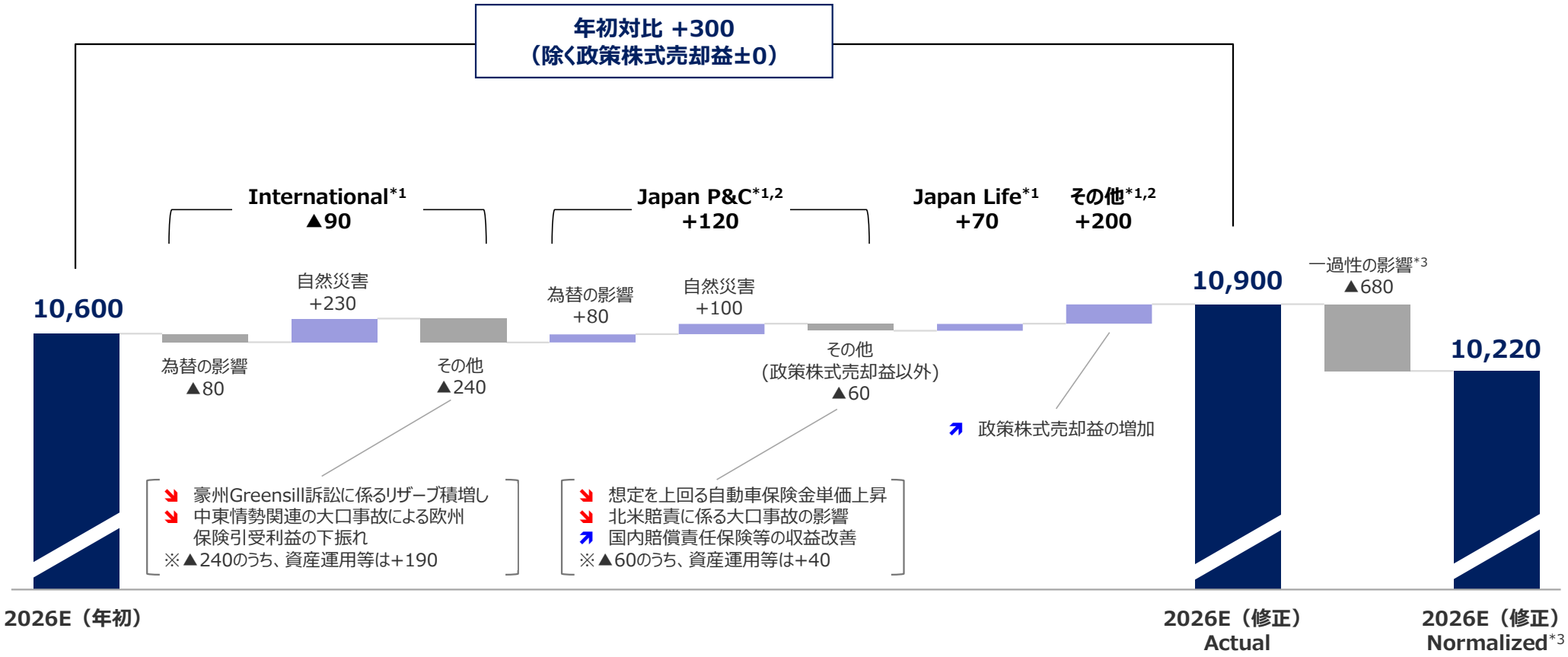
Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

JGAAP

TOKIO MARINE

（参考）JGAAP 2026年度予想

■ 修正純利益（億円）



*1: 金額は各事業の事業別利益。「Japan P&C」はTMNF。「Japan Life」はAL。「その他」は、TMNF以外のJapan P&C事業やソリューション事業、政策株式売却損益、連結調整等

*2: 政策株式売却益は、事業別利益には含まれないが、修正純利益には含まれる

*3: 2026E(修正)Actual1兆900億円から、以下の一過性の影響+680億円を控除。
①International+300（自然災害+230、北米キャピタル+40、外貨間為替+30）、②Japan P&C+90（自然災害+100、北米キャピタル▲10）、③Japan Life▲10（北米キャピタル）、
④政策株式売却益+300（売却額が4,300億円を超えた部分）等

Copyright (c) 2026 Tokio Marine Holdings, Inc.

MEMO

＜ ご注意 ＞

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載されています。
これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。
従いまして、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

お問い合わせ先

東京海上ホールディングス株式会社

資本戦略部 IR･SRグループ

URL: www.tokiomarinehd.com/inquiry/ir.html